The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	2005年度年報
Author(s)	
Citation	多文化社会と留学生交流 : 大阪大学留学生センター研究論集. 2006, 10, p. 125-184
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/50690
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

2005年度　年報

大阪大学留学生センター
International Student Center, Osaka University

大阪大学留学生センター
2005年度年報

目　次

Ⅰ．現況 …… 127

Ⅱ．留学生日本語プログラム …… 129

Ⅲ．日韓共同理工系学部留学生プログラム …… 136

Ⅳ．短期留学特別プログラム …… 137

Ⅴ．学生交流の推進 …… 141

Ⅵ．学生支援 …… 146

Ⅶ．その他の活動 …… 154

Ⅷ．教員個人データ …… 157

資料 …… 177

Ⅰ．現況

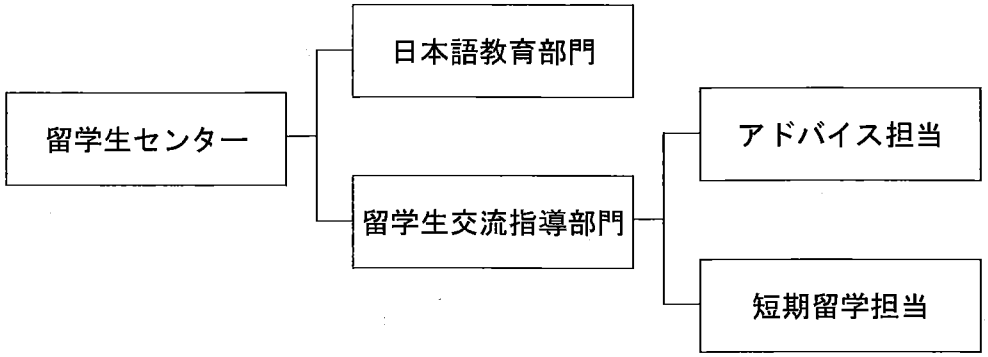
１．運営形態

留学生センターはその最高意思決定機関として留学生センター教授会を置いている。留学生センター教授会は、留学生センター長と留学生センター教員併せて12名、及び各研究科から選ばれた教授または助教授15名、計27名の本学教員で構成されており、本教授会において留学生センターの業務と運営に関する重要事項が審議される。本年度も、例年同様、毎月１回（８月を除く）定例教授会が開かれた。

留学生センター教授会の下には、総合計画委員会、評価委員会、財務委員会、教務委員会、広報出版委員会の５つの委員会が設置され、教授会構成員が委員となって、役割を果たしている。また、留学生センターの具体的な運営に関する細目を検討したり連絡調整等を行ったりするために、留学生センター教官連絡調整会議が毎月１回開催されている。この会議を通して、センターの運営や各種事業や行事の運営が円滑に行われ、また部門間の協力や連絡調整が有効に行われている。

２．組織

留学生センターでは、日本語教育部門と留学生交流指導部門の２つの部門を設置して、常に連携をとりながら、業務の運営にあたっている。日本語教育部門は主として、外国人留学生に対する日本語教育に関する業務を担当している。留学生交流指導部門は、さらにアドバイス担当と短期留学担当に分かれ、前者は留学生に対する修学・生活上の指導助言及び海外留学を希望する学生に対する修学・生活上の指導助言を、そして後者は短期留学特別プログラムのコーディネーション業務全般及びその他の短期留学生のオリエンテーション等をそれぞれ担当している。



留学生センター組織図

3．教員

※ 2005年４月１日現在

センター長	教授	辻　毅一郎（工学博士、工学研究科教授と兼任）
留学生交流指導部門	教授・副センター長	古城　紀雄（工学博士）
	教授	北浜　榮子（理学博士）
	助教授	有川　友子（Ph. D）
		近藤　佐知彦（Ph. D）
日本語教育部門	教授	西口　光一（教育学修士）
		三牧　陽子（文学修士）
		村岡　貴子（文学修士）
	助教授	大谷　晋也（言語文化学修士）
		難波　康治（教育学修士）
		西村　謙一（法学修士）
	講師	吉村　裕美（文学修士）
兼任教員	留学生受入れ専門教育教員	鄭　聖汝（講師、文学研究科）
		石川　真由美（講師、人間科学研究科）
		瀬戸山　晃一（講師、法学研究科）
		西垣　葵（講師、経済学研究科）
		菊池　和憲（講師、理学研究科）
		中嶋　幹男（講師、工学研究科）
		芦沢　真五（講師、工学研究科）
		国吉　ニルソン（講師、工学研究科）
		惣田　訓（講師、工学研究科）
		林　秀美（講師、工学研究科）
		熊谷　悦生（講師、基礎工学研究科）

生活相談員　山岸　美穂

カウンセラー　三木　善彦

事務補佐員　富野　香宝里

坂東　恭子

非常勤講師　岡崎　洋三、東保　登紀代、林　洋子、米田　由喜代、山崎　深雪、埋橋　淑子、都築（内藤）裕美、福良　直子、藤澤　好恵、スミス　朋子、ソーヤー　りえこ、安田　正枝

謝金講師　嶋津　百代、中谷　潤子、新庄　あいみ、御子神　慶子、布尾　勝一郎、須田　風志、重川　明美、服部　圭子、八木　真奈美、齋藤　美穂、神吉　宇一、池田　淑子

4．本年度の動き

辻毅一郎センター長は、本年度末をもって２年間のセンター長の任期を終える。次期センター長として、古城紀雄副センター長が選任された。また、副センター長には三牧陽子教授が選任された。吉村裕美講師は本年度末をもって留学生センターを退職し、京都光華女子大学（文学部日本語日本文学科）に移ることとなった。

Ⅱ．留学生日本語プログラム

「留学生日本語プログラム」は、学内の留学生の多様なニーズに的確にかつきめ細かく対応するために平成16年度に再編されたプログラムであり、平成17年度もさらに発展実施した。選択の仕方からは「集中コース（日本語研修コース）」と「選択科目」に、また、専門との関連からは「一般日本語」科目と「専門日本語」科目に、その他専門分野（文系か理系か）や漢字圏出身か否か等、様々な観点から科目を編成し、それらを組み合わせて履修できるよう工夫されている。日本語レベルは入門から超上級までの６レベルが設定され、毎学期実施されるプレースメントテストおよび履修登録によって履修者を決定している。また、留学生の中には大学での勉学・研究のための英語学習を希望する者があるところから、吹田・豊中両キャンパスにおいて、各々週に１コマ英語補講を開講している。春学期及び秋学期の時間割と履修登録の状況については、年報末にある資料１および資料２に示した。

○　プログラム

従来の留学生の身分別によるプログラムを再編成し、履修の集中度や専門的な研究活動を日本語で遂行する必要があるか等の観点から科目の性格を明示することによって、留学生が各自のニーズや日本語学習に割ける時間等を勘案してコースを設定できるように工夫を凝らしたプログラム編成となっている。「日本語プログラム履修ガイド2005－2006」を発行し、プログラムの概要、科目の説明や配置、シラバス、手続き等必要な情報を示し、配布するとともにウェブでも閲覧できるようにしている。

○　開講コマ数

春学期91コマ、秋学期91コマ、計182コマ（日本語研修コース専用コマ計58コマ、および、共通教育日本語科目を含む）。

○　履修登録者数

春学期160名、秋学期173名、計333名であった。身分別内訳は、春学期（大学院生38％、研究生37％、短期留学生25％）秋学期（大学院生28％、研究生48％、短期留学生24％）と、短期留学生が約４分の１で、残り４分の３を占める大学院生と研究生の比率については、春学期はほぼ同率であったが秋学期は研究生の方が多く、学期による変動がみられた。部局別では、工学研究科を筆頭に、全14研究科および４研究所２センターと学内から幅広く利用されていることがわかる。詳細は年報末の資料２を参照いただきたい。

○　授業担当者

専任教員９名、非常勤講師12名、謝金講師12名。２キャンパスで開講する必要がある本プログラムにおいては、「漢字と語彙」等の一部科目について謝金を活用した講師による科目を開講している。

１．日本語研修コース

日本語研修コースは、主として本学の大学院への進学を希望する留学生を対象とした15週間の集中的な日本語予備教育コースである。日本語研修生の大部分は文部科学省の国費留学生（大使館推薦研究留学生および教員研修生）が占めるが、定員に余裕がある場合には、所定の選考手続きを経た上で、学内のその他の留学生（研究生、大学院生および短期留学生）も受け入れている。

日本語研修生（以下、学生）は、プレースメントテストおよび面接の結果により日本語レベルが判断され、以下の通り、ＡＢＣの３クラスに分かれて日本語を学ぶ。本コースの目標は、日本語能力の差異にかかわらず、日本語により専門分野のトピックについてパワーポイント等の視覚資料を活用しながら短いプレゼンテーションが行えるようになることである。学期中２回発表会を実施している。１回は、日本語中間発表会で「私のこと・私の国」について、もう１回は、修了発表会で、各自専門分野のトピックについてプレゼンテーションを行う。中上級レベルの日本語能力を有するＢＣクラスの学生には修了レポートも課している。

(1) Ａクラス

① 概要

Ａクラスは、コース開始時に日本語の学習経験がまったくない学生を対象として、初歩から日本語を学習する。中には母国等で多少学習した者も含まれる場合があるが、そのほとんどは、カタカナやひらがながかろうじて読め、挨拶程度の日本語が使えるレベルである。授業時間数は１週間当たり18コマで、うち14コマはＡクラス専用の授業を行い、４コマの漢字クラスのみ、他の留学生の受講を認めている。Ａクラスの学生の多くは、まったく言葉の通じない異文化の中で初めての一人暮らしを経験することになる。そのため、精神的なケアに特段の注意を払いつつ日本語の教育を行う必要がある。学習は「自己表現のための日本語」を習得することを中心に進められ、最終的には、教師のサポートを受けながら自分の専門分野について簡単なプレゼンテーションをすることを目標としている。

② 時間割

第22期・第23期日本語研修コースＡクラス時間割（平成17年度）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
１時間目 8:50-10:20	Ａクラス日本語： コミュニケーション行動1 JI100	Ａクラス日本語： コミュニケーション行動4 JI100	Ａクラス日本語： コミュニケーション行動7 JI100	Ａクラス日本語： コミュニケーション行動9 JI100	Ａクラス日本語： コミュニケーション行動12 JI100
２時間目 10:30-12:00	Ａクラス日本語： コミュニケーション行動2 JI100	Ａクラス日本語： コミュニケーション行動5 JI100	Ａクラス日本語： コミュニケーション行動8 JI100	Ａクラス日本語： コミュニケーション行動10 JI100	Ａクラス日本語： コミュニケーション行動13 JI100
12:00～13:00　昼休み					
３時間目 13:00-14:30	Ａクラス日本語： コミュニケーション行動3 JI100	Ａクラス日本語： コミュニケーション行動6 JI100	研究室 訪問	Ａクラス日本語： コミュニケーション行動11 JI100	Ａクラス日本語： コミュニケーション行動14 JI100
４時間目 14:40-16:10	漢字と語彙 JK101-1	漢字と語彙 JK101-2		漢字と語彙 JK101-3	漢字と語彙 JK101-4

(2) Ｂクラス

① 概要

Ｂクラスは、初級修了者を対象としているが、来日前に母国で独習に近い方法で日本語を学んだ者も含まれ、特に口頭表現能力のレベルはかなり幅が広いクラスである。授業時間数は１週間当たり16コマで、10コマのＢクラス専用授業と６コマの技能別専門日本語授業（選択必修科目）で構成されている。Ｂクラス日本語（コミュニケーション行動）（JI200）は、日本社会への適応と大学の研究室での研究活動を支えるための社会文化能力を獲得することを目的とし、基本的にトピックシラバスによりカリキュラムを編成している。学生は、漢字系および非漢字系、さらに非漢字系の中で漢字知識の量により、３レベルに分かれて漢字・語彙クラスおよび読解クラスを受講する。

② 時間割

第22期・第23期日本語研修コースＢクラス時間割（平成17年度）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
１時間目 8:50-10:20	Bクラス日本語： コミュニケーション行動1 JI200	Bクラス日本語： コミュニケーション行動3 JI200	Bクラス日本語： コミュニケーション行動5 JI200	Bクラス日本語： コミュニケーション行動7 JI200	
２時間目 10:30-12:00	Bクラス日本語： コミュニケーション行動2 JI200	Bクラス日本語： コミュニケーション行動4 JI200	Bクラス日本語： コミュニケーション行動6 JI200	Bクラス日本語： コミュニケーション行動8 JI200	Bクラス日本語： コミュニケーション行動10 JI200
12:00～13:00　昼休み					
３時間目 13:00-14:30	専門日本語 プレゼンテーション 基礎　JP200-1	専門読解基礎 JR201-1 JR251-1 専門読解 ワークショップ （文系）JR255	研究室 訪問	Bクラス日本語： コミュニケーション行動9 JI200	専門読解基礎 JR201-2 JR251-2 専門読解 ワークショップ （理系）JR256
４時間目 14:40-16:10	専門日本語 プレゼンテーション 基礎　JP200-2	漢字と語彙 （非漢字系） JK201-1/JK251-1 漢字と語彙 （漢字系） JK252-1			漢字と語彙 （非漢字系） JK201-2/JK251-2 漢字と語彙 （漢字系） JK252-2

(3) Ｃクラス

① 概要

Ｃクラスは、日本語を２年程度、約300時間以上学習した経験を持つ学生を対象としている。授業時間数は１週間当り15コマで、５コマのＣクラス日本語授業と10コマの技能別専門日本語授業（選択必修科目）で構成されている。Ｃクラス日本語「コミュニケーション行動」（JI300／400）はトピックベースの授業で、新聞等の生教材を資料にして読解、聴解、ディスカッションを行い、また語彙や文法を学習する。学生は、日本語能力に応じて２レベルに、専門に応じて文系／理系に分かれて専門日本語授業を受講する。

② 時間割

春学期、秋学期とも、Ｃクラス日本語はトピック・ユニットである。取り上げたトピックは、気候・地理、食べる、家族、住む、環境、男性と女性、若者・教育、大阪、日本の歴史であった。17年度は春と秋とで時間割が若干異なっていたが、以下には春学期の時間割を示した。

第22期日本語研修コースＣクラス時間割（平成17年度春学期）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
１時間目 8:50-10:20	Cクラス日本語： コミュニケーション行動1 JI300/400	Cクラス日本語： コミュニケーション行動3 JI300/400	Cクラス日本語： コミュニケーション行動4 JI300/400	専門会話 JC300/400	専門日本語プレゼンテーション（文系） JP303/403-1 専門日本語プレゼンテーション（理系） JP304/404-1
２時間目 10:30-12:00	Cクラス日本語： コミュニケーション行動2 JI300/400	専門日本語 文法・読解 JG300	Cクラス日本語： コミュニケーション行動5 JI300/400	専門会話 JC300/400	専門日本語プレゼンテーション（文系） JP303/403-2 専門日本語プレゼンテーション（理系） JP304/404-2
12:00～13:00　昼休み					
３時間目 13:00-14:30	専門日本語 作文 JW300 専門作文 （論文を書く） JW400/500	専門読解 ワークショップ （文系）JR255 専門読解 ワークショップ （漢字系）JR402	研究室 訪問		専門読解 ワークショップ （理系）JR256
４時間目 14:40-16:10	専門日本語 作文 JW300 専門作文 （論文を書く） JW400/500	漢字と語彙 （漢字系） JR252-1			漢字と語彙 （漢字系） JR252-2

○　コーディネータ

村岡貴子（全体・Ｂクラス）、大谷晋也（Ａクラス）、西村謙一（Ｃクラス）

○　学生数と身分別内訳

クラス別人数

	Ａクラス	Ｂクラス	Ｃクラス	計
春学期	14	9	6	29
秋学期	13	9	6	28
計	27	18	12	57

身分別内訳（全体）

	大使館推薦	教員研修	学内応募	計
春学期	22	0	7	29
秋学期	6	11	11	28
計	28	11	18	57

大使館推薦クラス別内訳

	Ａクラス	Ｂクラス	Ｃクラス	計
春学期	11	7	4	22
秋学期	4	2	0	6
計	15	9	4	28

教員研修クラス別内訳

	Ａクラス	Ｂクラス	Ｃクラス	計
春学期	0	0	0	0
秋学期	8	1	2	11
計	8	1	2	11

学内応募クラス別内訳

	Ａクラス	Ｂクラス	Ｃクラス	計
春学期	3	2	2	7
秋学期	1	6	4	11
計	4	8	6	18

○　学生出身国と配置（進学）先一覧

研修生の国籍

国名	春学期	秋学期	計
イラン	0	1	1
インド	1	0	1
インドネシア	4	2	6
エジプト	0	1	1
オーストラリア	0	1	1
カナダ	0	1	1
カンボジア	1	0	1
キューバ	1	0	1
コロンビア	1	0	1
スロベニア	1	0	1
タイ	2	0	2
チュニジア	0	1	1
トルコ	2	0	2
ドイツ	0	1	1
ドミニカ共和国	1	0	1
ネパール	1	0	1
ハンガリー	1	0	1
パナマ	0	1	1
パレスチナ	1	0	1
フィジー	0	1	1
フィリピン	0	3	3
ブラジル	1	1	2
ベトナム	1	0	1
ベルギー	0	1	1
ボリビア	1	0	1
ポーランド	1	0	1
マレーシア	1	0	1
ミャンマー	0	4	4
メキシコ	1	1	2
モンゴル	1	1	2
ラオス	1	0	1
ロシア	0	1	1
韓国	0	1	1
中国	4	5	9
計	29	28	57

配置（進学）先一覧

配置（進学）先	春学期	秋学期	計
人間科学研究科	3	1	4
文学研究科	2	1	3
法学研究科	1	0	1
経済学研究科	3	0	3
医学系研究科	3	4	7
薬学研究科	2	0	2
理学研究科	2	3	5
基礎工学研究科	0	1	1
工学研究科	6	2	8
情報科学研究科	2	0	2
生命機能研究科	1	2	3
微生物病研究所	2	0	2
産業科学研究所	0	1	1
接合科学研究所	0	2	2
サイバーメディアセンター	1	0	1
レーザーエネルギー学研究センター	1	0	1
大阪教育大学	0	5	5
奈良教育大学	0	1	1
和歌山大学	0	5	5
計	29	28	57

2．選択科目

選択科目は、プレースメントテストの結果によって配置されたレベルの科目群の中から、留学生が各自のニーズと日本語受講に割ける時間等を勘案して、必要な科目数だけ自由に選択できるように設定されている。吹田・豊中両キャンパスで開講。「漢字と語彙」には漢字圏/非漢字圏出身者用、「口頭発表」には文系/理系用がそれぞれ設けられ、より効果的に学習できるよう工夫されている。開講科目の詳細については年報末の資料１の時間割を参照。

○　科目の種類とコマ数

年間計134コマ（実質124コマ）。以下の*印の科目を履修した大学院生および短期留学生は単位を取得することができる。

(1) 一般日本語科目：計60コマ

「総合日本語JA*」(週３コマ)計24コマ、「総合日本語JB」(週２コマ)計16コマ、「漢字と語彙」計20コマ。

(2) 専門日本語科目：計55コマ

「専門読解JR」15コマ、「専門日本語文法・読解JG」７コマ、「専門作文JW」10コマ、「専門会話JC」６コマ、「口頭発表JP」15コマ、「専門日本語総合（理系）JT」２コマ。

(3) その他：共通教育科目*（レベル500あるいは550に相当）19コマも、一般留学生の希望者には履修可能としている。

○　履修までの手続き

毎学期はじめに計３回（春学期）・４回（秋学期）（うち１回は遅れて来日した留学生のための追加）プレースメントテストを実施し、履修希望者は都合の良い１回を選んで全員受験し、発表されたレベルの科目群の中から選択して授業に出席する。約２週間後に履修希望届けを受け付け、クラスサイズおよび科目毎に設定された身分別優先順位を勘案して履修許可者を科目毎に発表した。プレースメントテストの結果および履修許可者の発表、レベル別の履修希望届け出用紙の配布は、掲示や配布と共にウェブによっても行った。カリキュラム改革後２年目となる平成17年度は、一連の履修に関する手続きの方法について、履修動向に適した方法がほぼ確定した年度となった。

3．共通教育

全学共通教育科目として、第３外国語（日本語、多文化コミュニケーション）、選択外国語（日本語）、および基礎セミナーを、計25コマ（実質19コマ）提供した。また、２名が前年度に引き続き、大学教育実践センター兼任教員として共通教育の実施運営に携わった。

○　提供科目とコマ数

(1) 第３外国語

留学生が第２外国語（初習外国語）に替えて履修できる科目。「日本語」と「多文化コミュニケーション」の２種類の科目を開講している。

「日本語」：大学の授業で用いる日本語運用能力の養成を目的とする。１単位。各学期４コマ計８コマ提供。

「多文化コミュニケーション」：留学生と基礎セミナーとして履修する一般学生とが、活動を通じ多文化社会での行動能力の向上を目指す。２単位。各学期３コマ計６コマ提供。

(2) 選択外国語

人間科学部および文学部対象。計５コマ提供。

(3) 基礎セミナー「多文化コミュニケーションセミナー」

各学期３コマ計６コマ提供。留学生対象の「多文化コミュニケーション」と合同で開講。

○　授業担当者

共通教育提供科目・担当者一覧

※ 科目名のIは１回生、IIは２回生対象を表す

I, III セメスター

(1) 第３外国語

授業科目名	担当者	配当学部
日本語Ⅰ-1/Ⅱ-1	大谷晋也	全学部
日本語Ⅰ-2/Ⅱ-2	三牧陽子	全学部
日本語Ⅰ-3/Ⅱ-3	北浜榮子	全学部
日本語Ⅰ-7/Ⅱ-7	難波康治	全学部

多文化コミュニケーションⅠ-1/Ⅱ-1	北浜榮子	全学部
多文化コミュニケーションⅠ-2/Ⅱ-2	西村謙一	全学部
多文化コミュニケーションⅠ-3/Ⅱ-3	有川友子	全学部

(2) 選択外国語（日本語）

日本語４８５Ａ	吉村裕美	人　文
日本語５９５Ａ	難波康治	人　文

(3) 基礎セミナー

多文化コミュニケーションセミナーA ―サイエンス・コミュニケーション―	北浜榮子	全学部
多文化コミュニケーションセミナーB ―国際協力と異文化理解１―	西村謙一	全学部
多文化コミュニケーションセミナーC ―異文化理解へのアプローチ１―	有川友子	全学部

II, IV セメスター

授業科目名	担当者	配当学部
日本語Ⅰ-4/Ⅱ-4	大谷晋也	全学部
日本語Ⅰ-5/Ⅱ-5	三牧陽子	全学部
日本語Ⅰ-6/Ⅱ-6	北浜榮子	全学部
日本語Ⅰ-8/Ⅱ-8	難波康治	全学部

多文化コミュニケーションⅠ-4/Ⅱ-4	西村謙一	全学部
多文化コミュニケーションⅠ-5/Ⅱ-5	難波康治	全学部
多文化コミュニケーションⅠ-6/Ⅱ-6	有川友子	全学部

日本語４８５Ｂ	吉村裕美	人　文
日本語５９５Ｂ	難波康治	人　文
日本語５９５Ｂ	吉村裕美	人　文

多文化コミュニケーションセミナーD ―国際協力と異文化理解２―	西村謙一	全学部
多文化コミュニケーションセミナーE ―global communication を考える―	難波康治	全学部
多文化コミュニケーションセミナーF ―異文化理解へのアプローチ２―	有川友子	全学部

○　大学教育実践センター兼任教員

- 古城紀雄教授：　教育実践研究部教育交流部門
- 三牧陽子教授：　共通教育実践部国際教育部門

Ⅲ．日韓共同理工系学部留学生プログラム

日韓共同理工系学部留学生プログラム（以下、KOSMOSプログラム）とは、日本の大学の理工系学部に韓国人留学生を受け入れる留学生事業であり、大阪大学では、プログラム初年度の平成12年度より受け入れを開始した。本プログラムでは、学部入学前に1年間の予備教育を行っており、前半を韓国で、後半を大阪大学で実施している。

全学的な受け入れ体制のもとで実施されているKOSMOSプログラムは、日本語教育と専門教科教育の2つの教育課程から構成されている。数学、物理、化学、英語といった専門教科は受け入れ学部の専門教育教員が、日本語科目については留学生センター日本語教育部門教員がコーディネータとなり、授業の計画および実施に携わっている。

週8コマ開講されている日本語科目では、日常生活において日本語で円滑にコミュニケーションを行い、かつ大学生活で必要とされる総合的な日本語を運用する能力を養成することを目標とし、多様な科目を配置している（時間割参照）。さらに、大学では自ら問題を発見し、分析し、その結果を発信する能力が求められることから、発表やディスカッション、レポート作成といった活動も重視している。

また、留学生センターの日本語教育部門および留学生交流指導部門の教員が連携し「ホームルーム」の時間を活用して生活面でのアドバイスを行っている。さらに、課外活動として地域の学校と連携して国際理解教育プログラムへの参加も促している。

1．時間割

第６期　日韓共同理工系学部留学生対象予備教育　時間割（平成17年度）

	月曜日（吹田）	火曜日（豊中）	水曜日（吹田）	木曜日（豊中）	金曜日（吹田）
１時間目			理科系日本語	英 語	
２時間目	化学 1	専門基礎日本語	理科系日本語	数学 2	物理 2
昼休み			ホームルーム		
３時間目	化学 2	専門基礎日本語		日本事情・異文化適応	専門読解ワークショップ（理系）
４時間目	物理 1	数学 1		日本事情・異文化適応	専門基礎日本語

2．学生数と進学先

平成17年度は、5名の学生を受け入れた。進学先は、工学部が3名、基礎工学部が2名である。

Ⅳ．短期留学特別プログラム

大阪大学短期留学特別プログラム（Osaka University Short-term Student Exchange Program： 以下OUSSEP）は、本学の海外提携大学に在学中の学生を対象に、本学での学習および単位取得の機会を英語によって提供するために創設された留学生受け入れプログラムである。提携大学間における授業料の不徴収と単位の互換認定が柱となっている。1996年から2005年までの10年間に、21ヵ国50大学から、277名の交換留学生を受け入れてきた。OUSSEP学生は本プログラム創設時に導入された英語による「国際交流科目」授業を受講することによって単位を取得できる。また、この国際交流科目受講は本学の学生も可能で単位が取得でき、卒業要件単位として認定されることもある。春学期並びに秋学期の時間割は、年報末にある資料３に示した。

OUSSEPは全学プログラムであるため、国際交流科目授業については全部局が提供するが、協定校交換留学担当者や学内各部局授業担当者・自主研究担当者との連絡調整および教育カリキュラムの企画・実施は留学生交流指導部門に配属された短期留学担当の教員2名が担当する。さらにはOUSSEP学生のアカデミック・アドバイザーとしての役割も果たしている。

なお、本来は9月を始期とする1年間の英語による授業が行われるプログラムであるが、2006年秋学期からは、1セメスターのみ参加する学生や日本語を集中的に学ぶ学生も受け入れ可能な、より柔軟なプログラムへ移行する予定である。（詳細は「 Ⅴ．学生交流の推進　２．新しい短期留学受入れスキームの計画」 を参照。）

１．行事

OUSSEPおよび国際交流科目関係の行事（2005年4月から2006年3月まで）

月	行事内容
4月	オーストラリア学生大阪到着(4/4)、国際交流科目春学期担当教員向けオリエンテーション(4/8)、春学期学生オリエンテーション(4/8)、国際交流科目春学期開始(4/11)、国際交流科目履修手続き期間(4/11-25)
5月	大阪市環境事業局舞洲工場のフィールドトリップ(5/18、日本人学生も参加)
6月	トヨタ自動車のフィールドトリップ(6/15、日本人学生も参加)
7月	高野山研修１泊旅行(7/16-17)
8月	春学期授業終了(8/4)、第９期閉講式(8/8) 第９期生、随時帰国
9月	第10期生大阪到着(9/21)、オリエンテーション、ホストファミリーとの「出会いの会」、サイバーメディアセンター説明会、図書館利用説明会、キャンパスツアー(9/22-29)、日本語プレースメントテスト(9/24)、第10期開講式(9/30)、自主研究指導教員・国際交流科目秋学期担当教員向けオリエンテーション(9/30)
10月	国際交流科目秋学期開始(10/3)、自主研究指導教員と学生の面談(10/3-7)、日本語オリエンテーション(10/5)、My Country & My University 発表会(10/19)、吉備少年自然の家研修１泊旅行(10/25-26)
11月	大阪科学技術センター科学技術館と大阪市立科学館のフィールドトリップ(11/16、日本人学生も参加)
12月	松下電器産業株式会社歴史館と三洋電機本社サンヨー・ミュージアムのフィールドトリップ(12/7、日本人学生も参加)、冬休み(12/23-1/9)
1月	冬休み終了(1/9)
2月	国際交流科目秋学期終了(2/17)
3月	春休み(2/18-4/12)

2．2005年春学期：OUSSEP学生名簿と国際交流科目リスト

2005年春学期　OUSSEP学生名簿

No	性別	応募時の学年	在籍大学	国籍	大阪大学での所属部局
1	男	U3	ガジャマダ大学	インドネシア	工学部
2	男	U5	ミュンヘン工科大学	ドイツ	工学部
3	女	U2	モナシュ大学	イスラエル	文学部
4	男	U3	テキサス A&M 大学	アメリカ合衆国	人間科学部
5	男	U5	ブダペスト工科大学	ハンガリー	工学部
6	男	U3	マヒドン大学	アメリカ合衆国	法学部
7	男	U2	ブリティッシュ・コロンビア大学	カナダ	人間科学部
8	男	U6	パドア大学	イタリア	工学部
9	男	U3	ウッジ工科大学	ポーランド	工学部
10	女	U2	南京大学	中国	理学部
11	女	U2	オルデンブルグ大学	ドイツ	工学部
12	男	U3	チュラロンコン大学	タイ	経済学部
13	女	U3	アインホフェン工科大学（化学部）	オランダ	理学部
14	男	M1	マーク・ブロシュ大学	フランス	言語文化研究科
15	男	U3	スウェーデン王立工科大学	スウェーデン	基礎工学部
16	女	U3	テキサス A&M 大学	アメリカ合衆国	法学部
17	女	U2	ヴェクショー大学	スウェーデン	人間科学部
18	男	U3	全南大学校	大韓民国	経済学部
19	女	U5	コペンハーゲン大学	デンマーク	言語文化研究科
20	男	U2	ジョゼフ・フルニエ大学	フランス	基礎工学部
21	女	U3	武漢大学	中国	理学部
22	女	U2	マックマスター大学	大韓民国	経済学部
23	女	U3	テキサス A&M 大学	アメリカ合衆国	文学部
24	男	U3	オーボアカデミー大学	フィンランド	基礎工学部
25	男	U2	パードュー大学（工学部）	アメリカ合衆国	工学部
26	女	U3	釜山大学校	大韓民国	文学部
27	女	U3	延世大学校	大韓民国	文学部
28	女	U3	オーストラリア国立大学	大韓民国	経済学部
29	男	U2	ワシントン大学	アメリカ合衆国	文学部
30	男	U4	アインホフェン工科大学（化学部）	オランダ	理学部
31	女	U3	ミュンヘン・ルートヴィッヒ・マクシミリアン大学	ブルガリア	人間科学部
32	女	U2	武漢大学	中国	理学部

2005年春学期　国際交流科目開講リスト

No	科目名（日本語）	科目名（英語）	開講部局	主たる担当教員
1	哲学的思考と日本の伝統	Philosophical Thinking and Japanese Traditions	文学部	中岡　成文　教授
2	身のまわりの化学	Chemistry and Human Life	理学部	村田　道雄　教授
3	我が国の保健医療制度の概要	Introduction to Health Service and Medical Care in Japan	医学部	森本　兼曩　教授
4	21 世紀の電子工学	Electronic Engineering in the 21st Century	工学部	森田　清三　教授
5	物性物理学入門	Introduction to Material Physics	基礎工学部	三宅　和正　教授
6	近代日本政治	Politics in Modern Japan	国際公共政策研究科	栗栖　薫子　助教授
7	異文化理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	留学生センター	有川　友子　助教授
8	日本の社会とイデオロギー	Japan: Society and Ideology	留学生センター	近藤佐知彦　助教授
9	科学技術日本語 II	Technical Japanese A: Part II	留学生センター	北浜　榮子　教授
10	社会科学日本語 II	Technical Japanese B: Part II	留学生センター	西村　謙一　助教授
11	日本語 JA200	Japanese JA200	留学生センター	スミス朋子　非常勤講師
12	日本語 JA300	Japanese JA300	留学生センター	岡崎　洋三　非常勤講師
13	日本語 JA400	Japanese JA400	留学生センター	難波　康治　助教授
14	日本語 JA500	Japanese JA500	留学生センター	吉村　裕美　講師

３．2005年秋学期：OUSSEP学生名簿と国際交流科目リスト

2005年秋学期　OUSSEP学生名簿

No	性別	応募時の学年	在籍大学	国籍	大阪大学での所属部局
1	男	U3	ブダペスト工科・経済大学	ハンガリー	工学部
2	女	U2	モナシュ大学	イスラエル	文学部
3	女	U2	スウェーデン王立工科大学	スウェーデン	医学部
4	男	U2	モナシュ大学	オーストラリア	基礎工学部
5	女	U4	オルデンブルグ大学	ドイツ	工学部
6	女	U3	チュラロンコン大学	タイ	法学部
7	男	U3	ウッジ工科大学	ポーランド	工学部
8	女	U4	ウェズリアン大学	アメリカ合衆国	文学部
9	男	U3	グローニンゲン大学	オランダ	工学部
10	女	U2	マギル大学	カナダ	経済学部
11	女	U3	南京大学	中国	経済学部
12	男	U1	マギル大学	カナダ	工学部
13	男	U2	コペンハーゲン大学	デンマーク	言語文化研究科
14	男	U3	釜山大学校	大韓民国	工学部
15	女	U4	ガジャマダ大学	インドネシア	工学部
16	女	U2	マックマスター大学	カナダ	経済学部
17	男	U3	延世大学校	大韓民国	医学部
18	男	U2	スタンダール・グルノーブル第三大学	フランス	文学部
19	女	U3	ノンラン大学	ベトナム	工学部
20	女	U4	オーボアカデミー大学	フィンランド	工学部
21	女	U3	デルフト工科大学	オランダ	文学部
22	女	U3	オーストラリア国立大学	大韓民国	経済学部
23	男	U3	ブリティッシュ・コロンビア大学	カナダ	理学部
24	女	U3	チュラロンコン大学	タイ	法学部
25	男	U3	ミュンヘン・ルートヴィッヒ・マクシミリアン大学	ドイツ	基礎工学部

2005年秋学期　国際交流科目開講リスト

No	科目名（日本語）	科目名（英語）	開講部局	主たる担当教員
1	日本における言語と文化の多様性	Linguistic and Cultural Diversity in Japan	文学部	土岐　哲　教授
2	内と外から見た日本 ー現代日本文化・社会入門	Japan In and Out - Introduction to Contemporary Japanese Culture and Society	人間科学部	石川真由美　講師
3	日本の法・政治システムと法・政治文化	Japanese Legal & Political System and Legal & Political Culture	法学部	瀬戸山晃一　講師
4	現代物理学の最前線	Current Topics in Modern Physics	理学部	細谷　裕　教授
5	薬学入門	Introduction to Pharmaceutical Sciences	薬学部	谷佳　津治　講師
6	工学の基盤分野における日本の革新技術	Innovative Japanese Technologies in 3M-based Engineering	工学部	掛下　知行　教授
7	機械科学への招待	Invitation to Mechanical Science and Bioengineering Lectures	基礎工学部	平尾　雅彦　教授
8	近代・現代日本文学	Japanese Literature, Modern and Contemporary	言語文化研究科	村上スミス・アンドリュー　助教授
9	日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	留学生センター	近藤佐知彦　助教授
10	最近の科学・技術の話題 ー科学技術日本語Ｉー	Current Science and Engineering Topics in Japanese -Technical Japanese　A: Part Ⅰ-	留学生センター	北浜　榮子　教授
11	最近の社会・文化の話題 ー社会科学日本語Ｉー	Current Social and Cultural Topics in Japanese -Technical Japanese　B: Part Ⅰ-	留学生センター	西村　謙一　助教授
12	日本語 JA100	Japanese JA100	留学生センター	スミス朋子　非常勤講師
13	日本語 JA200	Japanese JA200	留学生センター	岡崎　洋三　非常勤講師
14	日本語 JA300	Japanese JA300	留学生センター	西口　光一　教授
15	日本語 JA400	Japanese JA400	留学生センター	吉村　裕美　講師

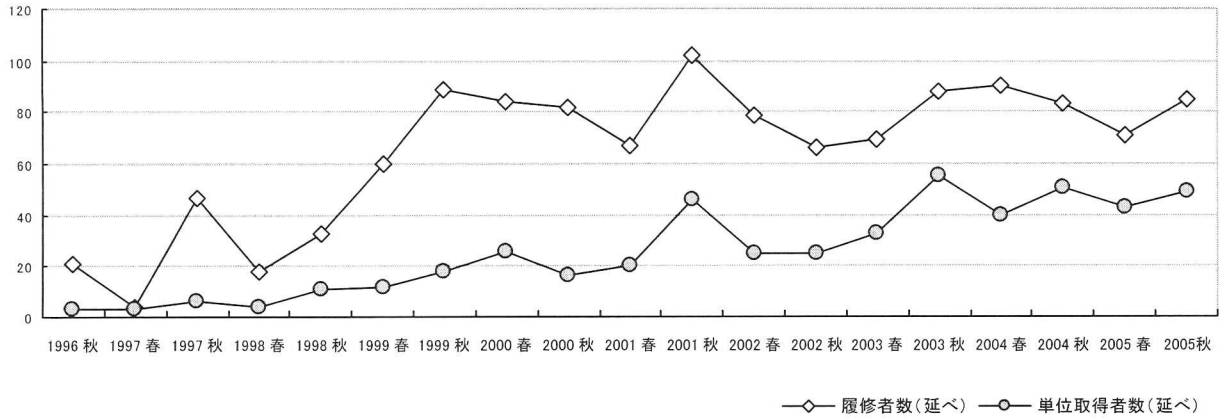
4．国際交流科目履修者数と単位取得者数（2005年春学期および2005年秋学期のOUSSEP外学生）

部局別： OUSSEP外学生の国際交流科目履修者数と単位取得者数

学部	文	法	高司	経済	人科	国公	言文	理	医	歯	生命	薬	工	基工	情報	計	G/R
2005春	11(7)	5(0)	2(0)	10(9)	12(7)	0(0)	1(0)	6(1)	2(2)	0(0)	0(0)	0(0)	16(15)	3(1)	3(1)	71(43)	0.61
2005秋	10(3)	5(1)	0(0)	22(18)	3(3)	0(0)	0(0)	6(3)	4(3)	0(0)	0(0)	4(0)	17(10)	14(8)	0(0)	85(49)	0.58
2003春から2005秋の合計	50 (21)	32 (10)	3 (1)	90 (66)	44 (26)	0 (0)	1 (0)	46 (27)	22 (13)	0 (0)	5 (0)	15 (9)	126 (72)	49 (25)	3 (1)	486 (271)	0.56
1996秋から2005秋の合計	125 (52)	79 (19)	3 (1)	203 (120)	149 (39)	3 (1)	1 (0)	162 (71)	70 (25)	1 (0)	5 (0)	20 (10)	297 (102)	115 (45)	6 (1)	1239 (486)	0.39

※いずれも延べ数。（　　）内の数字は単位取得者数を表す。G/Rは、履修者数に対する単位取得者数の割合を示す。

〈参考〉 OUSSEP外学生の国際交流科目受講状況および単位取得状況の推移



V. 学生交流の推進

1. 短期留学生の支援

留学生センター短期留学担当は、従来大阪大学短期留学特別プログラム（Osaka University Short-term Student Exchange Program、以下OUSSEP）のコーディネーションを担当してきた。しかしここ数年は大学の更なる国際化が求められる状況に鑑み、各部局に分散して受け容れられる交換留学生（部局分散学生）についての募集事務へのアドバイスや、募集に関する協定校との連絡、そして来学当初のケアも行ってきており、現在の仕事の範囲はOUSSEPに止まらず、全学交流協定校からの短期留学受け入れ業務全般に及んでいる。

2003年度に当時の留学生委員会の委嘱を受け、ワーキングの一員として、全学交流協定校に配布するための交換留学応募用紙の作成に協力した事を手始めとして、それまで部局単位でバラバラに行われていた募集業務などについて、OUSSEPで培ったノウハウを活かしつつ、OUSSEP担当者と学生交流推進課（旧・留学生課）とが協力しながら、短期留学受け入れ事業を運営している。

○ コーディネーション

担当としての日常業務の中で、OUSSEP担当教員が派遣や受け入れ可能学生数などの調整を行っている。また、来学希望学生の最初のコンタクト先として、留学生センター（OUSSEP担当）が選ばれる傾向があり、コンタクトしてきた学生の在籍校と協力して、適切な部局へ誘導・紹介を日常的に行っている。また、留学生センター教員がコンタクトパーソンを務める全学交流協定は、2005年度に関しては全48協定中13協定である。

○ オリエンテーション

春夏それぞれのセメスターにおいて、新規来学学生に対してオリエンテーションを実施している。特に秋期においては、図書館およびサイバーメディアセンターにおけるオリエンテーションが含まれる。また、特に支障がない限り、部局間協定に基づく受け入れ交換留学生がこれらのオリエンテーションに参加することもある。なお、新規来学学生のケアについては、地域のコミュニティ、留学生会、一般学生のサークル（BSP）などからの十全な協力を得て、早く本学の学習・研究環境にとけ込めるよう努めている。

2．新しい短期留学受け入れスキームの計画

大阪大学短期留学特別プログラム（OUSSEP）は、17年度にプログラム発足10年を迎え、2006-2007年度のプログラムをもって11期の募集となる。これを機として、国際交流委員会の下に「OUSSEP検討ワーキンググループ」が組織され、各部局からの委員に加え、留学生センターからも５名（センター長、副センター長、短期担当教員２名、日本語教育部門１名）の教員が加わり、交換留学事業の双方向性確保など種々の議論を行いつつ、プログラムを戦略的に発展・運用させていく方策について検討を加えた。

またこの議論に資するため、webを使ったアンケートを実施して協定校からの意見を徴し、また学内措置による「教育研究環境の国際化促進調査事業」の助成（2,100千円）をうけ「交換留学生受入れ拡大に関わる海外視察、聞き取り調査」を実施した。本調査にはワーキング外のメンバーを含む教員５名（教授２，助教授３）および職員１名が参加。ヨーロッパおよび北米の大学間学生交流協定校（一校は学生交流協定未締結）を訪問し、聞き取りに当たった。一部自己の資金を以て調査に貢献した教員や、海外での用務の合間に調査に参加した教員も加えると、合計８名が聞き取りに直接に関わっている。以上の調査および検討結果は報告書としてまとめられ、国際交流委員会に提出された。

○　新たなOUSSEPの枠組み

上記ワーキングにおいて、若干の変更を現行プログラムに加え、柔軟性を持たせる交換留学プログラムの再構築が適当と判断された。当ワーキングにおける議論および提案を反映させ、平成18年度秋期からの募集に関しては、現行プログラムに以下のような拡充点を加え、新たなOUSSEPの枠組みに移行することになった。

【現行プログラムの特色】

秋を始期とする年間２セメスターのプログラム。主に英語による授業で単位を発給する。したがって１セメスターのみの参加希望の学生や日本語学習を主目的とする学生は募集しない。

【新たなOUSSEPスキームのポイント】

(1) 半年間の国際交流科目（英語授業）履修の機会を提供する。（半年のOUSSEP）

(2) １セメスターの日本語集中学習の機会を提供し、第２セメスターにはそれぞれの専門科目を学習させる。（日本語集中OUSSEP）

○　日本語・日本文化研修生の受け入れ

従前本学では日本語日本文化研修生（以下日研生）の受け入れは行っていなかった。留学生センターで平成16年度に実施した外部評価において、その点が評価委員から指摘され、日研生プログラム導入についてはセンターの検討課題となっていた。上記のOUSSEP検討ワーキングが設置されて短期留学プログラムが拡充され、特に日本語集中OUSSEPの導入と並行して、同プログラムと関連させた日研生プログラムのありかたについても同ワーキングにおいて検討された。

その結果、第１セメスターを留学生センター内での日本語集中教育にあて、第２セメスターには各部局における専門科目の履修（もしくは実験等）をさせることによって、日本語や日本文化に対して十分な理解を示しつつ、各自の専門分野に応じた専門性の高い教育を施すことを目的とした、ユニークなプログラムとして学生受け入れを始めることとなった。コーディネートの任は留学生センターが負うこととし、センター外からも関係諸部局の協力を得、全学プログラムとして国際交流委員会で承認された。平成18年度秋期からの導入が進められている。

３．派遣留学の推進

留学生センター留学生交流指導部門では平成17年度も引き続き学生交流派遣推進にも積極的に取り組んだ。４月１日の新入生向け外国語科目履修ガイダンスにおいて、海外留学パンフレットおよび国際交流科目のパンフレットを配布して、海外留学のオリエンテーションを行った。また、留学生センター吹田地区IRIS（留学生交流情報室）および豊中分室において、パンフレット等による情報提供を継続するとともに、メールによる相談対応も行った。通常メールでの相談に対しては基本的に最低一度は面談を行い、相談内容によって継続的に対応を行った。

さらに、平成17年度より新たに完成した豊中キャンパス学生交流棟の２階の留学交流情報コーナーにて、学期期間中週３回のオフィスアワーを設け、留学相談への対応を行った。そのうち週１回は予約なしで対応し、残り２回については事前のメールでの予約により対応を行った。平成17年度はメールでの相談対応504件（受信・送信総数の延べ数)、面談による対応は90件を行った。

また例年通り６月には、学生交流推進課とともに、海外留学オリエンテーションを吹田と豊中キャンパス両方において、２日間実施し、交換留学はもちろん、その他の各種プログラムについての情報提供を行った。また海外留学の体験談や交換留学体験者や交換留学生とのフリートーキングの機会も設けた。オリエンテーションでは吹田・豊中あわせて189名の出席者があった。

国際交流委員会のもとに置かれた交換留学選考委員会において第一期の学内選考、第二期の学内選考を行い、内定を得た学生については、協定校への推薦を行った。表１に平成17年度に交換留学制度において内定を得た学生の内訳を載せた。

海外留学に関連して、協定校との連絡も行った。具体的には６月の海外留学オリエンテーション前には募集人数の確認を各協定校とメールで行い、また学内選考後には推薦人数その他についての連絡を関係する協定校とメールで行うとともに、必要に応じて電話での連絡調整も行った。

参考まで、表２に大阪大学交換留学制度が開始した1998年から2005年までにおいて、留学生センターで対応した学生からの海外留学相談のメール及び面談の相談件数のデータを載せた。

表1　大阪大学交換留学（派遣）内定状況

（2006年1月—2007年3月留学開始分）

(1)部局別

部局名	第Ⅰ期 内定人数	第Ⅱ期 内定人数	部局間協定 による 派遣内定人数
文学部	1	5	
文学研究科	1	3	1
人間科学部		4	1
人間科学研究科		2	
法学部	1	6	
経済学部	3	0	4
工学部		1	
基礎工学部		0	
言語文化研究科		1	
国際公共政策研究科		2	
合　計	**6**	**24**	**6**

＊留学開始時期：第Ⅰ期 2006年1月～3月，第Ⅱ期 2006年4月～2007年3月

(2)大学別

大学名(大学間協定校)	第Ⅰ期 内定先	第Ⅱ期 内定先
チュラロンコン大学		1
釜山大学校	1	
オーストラリア国立大学	1	
モナシュ大学		1
ウェズリアンカレッジ(女子のみ)		1
テキサス A&M 大学	1	3
ナザレスカレッジ　ローチェスター校	1	2
ワシントン大学		2
マギル大学		2
マックマスター大学		1
ブリティッシュ・コロンビア大学		2
グローニンゲン大学		1
スウェーデン王立工科大学		1
ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学		2
オーボアカデミー大学	1	
ストラスブール大学連合		5
ルーヴァンカトリック大学(UCL)	1	
合　計	**6**	**24**

大学名(部局間協定校)	派遣内定人数
パリ・ラヴィレット建築エコール(文)	1
ヴェクショー大学(人)	1
ブリティッシュ・コロンビア大学(経)	3
ロンドン大学東洋アフリカ学院(経)	1
合　計	**6**

＊内定先は2006年3月現在

表２　海外留学相談データ

年度・月別合計（1998～2005）

	４月		５月		６月		７月		８月		９月		10月	
	メール	面談	メール	面談	メール	面談	メール	面談	メール	面談	メール	面談	メール	面談
1998	0	0	2	3	0	2	0	1	0	0	0	2	5	6
1999	4	7	10	5	20	5	17	6	5	0	14	0	17	2
2000	30	8	41	11	34	3	19	6	23	1	36	6	17	7
2001	38	13	10	0	20	3	10	1	27	0	24	3	14	2
2002	26	1	12	1	42	1	63	2	31	1	50	2	12	2
2003	1	1	2	3	30	3	39	2	24	4	65	5	13	3
2004	47	11	34	4	62	2	34	4	26	0	25	1	32	3
2005	50	12	36	16	34	10	26	7	84	7	40	5	31	5
合計1	196	53	147	43	242	29	208	29	220	13	254	24	141	30
合計2	249		190		271		237		233		278		171	

11月		12月		１月		２月		３月		合計		合 計
メール	面談	メール	面談	メール	面談	メール	面談	メール	面談	メール	面談	
3	3	0	1	2	1	0	0	0	0	12	19	31
4	1	10	2	11	2	9	2	10	5	131	37	168
26	5	20	2	13	1	6	0	10	7	275	57	332
26	0	21	0	29	0	26	0	6	0	251	22	273
9	1	7	0	10	0	0	0	1	0	263	11	274
8	1	6	0	15	0	2	0	4	0	209	22	231
54	3	37	2	12	2	14	1	7	1	384	34	418
29	7	66	11	40	6	60	4	8	0	504	90	594
159	21	167	18	132	12	117	7	46	13	2029	292	2321
180		185		144		124		59		2321		2321

注：　このデータには通常の留学対応件数を記す。個別の特別な事情による相談対応件数は含まない。メールは受信・送信総数の延べ数を記す。

Ⅵ. 学生支援

留学生センター留学生交流指導部門は、吹田地区は留学生交流情報室（IRIS)、豊中地区は留学生センター豊中分室に生活相談に対応するスタッフを配置し、アドバイス担当教員との密接な連携のもと、学生支援を継続的に行っている。学生が気軽に出入りできるスペースを提供するとともに、相談しやすい雰囲気を作り、関係部局とも連携しながら、迅速に対応している。また定期的に発行するIRISレター等のメールによる情報提供も行っている。このほか、大阪大学留学生会（OUISA: Osaka University International Student Association）やB. S. P. (Brothers and Sisters Program)等、学生間の交流や活動への支援も継続して行っている。更に、地域の国際交流団体やボランティアグループとの連携、地域の学校の国際理解教育プログラムへの協力も継続して行っている。このほか、一般学生の海外留学支援も行っている。

１．留学生支援

(1) 留学生センターにおける相談対応

吹田キャンパスにおいては留学生センターＩＲＩＳ（留学生交流情報室）（ＩＣホール２階）を学期期間中平日８:30－18:00開室、豊中キャンパスにおいては留学生センター豊中分室（イ号館１階）を学期期間中平日10:00－17:00開室とし、アドバイス担当教員と生活相談員との緊密な連携のもと、各種情報提供や相談対応を継続して行った。表１にＩＲＩＳ、表２に豊中分室への対応件数を記す。各種情報提供のほか、相談内容により担当教員との連携は勿論、関係部局との連携も行いながら、迅速な対応を行った。

(2) 新規来日留学生への支援

留学生センター所属の新規来日留学生に対して、来日前の情報提供やホストファミリープログラムの案内及び申し込み受付等を含め、来日前からコンタクトを行った。留学生来日当初の約一週間のオリエンテーションプログラムを、学生交流推進課や留学生センター日本語教育部門等と連携して企画実施し、スムーズな留学開始となるよう支援した。

来日前にホストファミリープログラムに申し込んだ学生とホストファミリーのマッチングについては近隣のボランティア団体や国際交流団体と連携して調整を行い、来日当初のオリエンテーション期間中に出会いの会を設けて、留学生とホストファミリーが来日初期に出会う機会を設けた。

また、来日当初に留学生が指導教員と面談できるように、オリエンテーションプログラムの中に研究室訪問の日程を組み、留学生来日前に指導教員と連絡をとり、研究室訪問の日程調整をあらかじめ行った上で、実施した。

更に、学生間の交流や支援の観点も含め、Ｂ．Ｓ．Ｐ．(Brothers and Sisters Program) の学生によるオリエンテーション初日の宿舎への出迎えやキャンパスツアー、大阪大学留学生会の紹介等を学生達と連携して行った。

表1　大阪大学留学生センター留学生交流情報室「IRIS」の相談対応状況及び来室・利用人数状況

項目＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
交　流	95	68	31	29	11	14	85	84	56	63	61	40	637
日本語	55	46	7	12	6	16	12	11	5	5	18	20	213
奨学金	9	3	6	0	1	5	0	3	2	6	2	4	41
保証人	2	0	2	0	0	0	1	1	1	1	1	0	9
住居保証人	5	2	2	2	1	5	3	1	6	0	8	5	40
医　療	6	4	6	8	2	6	0	6	2	3	3	4	50
入管関係	5	3	3	4	2	6	4	5	9	1	10	11	63
家族について	4	2	5	2	1	6	0	6	2	4	5	2	39
就　職	4	5	4	2	2	4	1	1	0	5	10	12	50
住　居	35	14	3	10	5	8	7	6	8	10	18	20	144
各種情報提供	288	216	122	103	49	154	289	203	171	160	122	110	1987
生活用品	105	45	15	3	8	25	26	17	13	15	31	60	363
学習・研究	5	0	6	10	6	1	4	5	4	4	7	1	53
事故・トラブル	5	1	2	4	1	1	1	3	3	11	3	3	38
引　越	6	2	1	1	2	2	4	1	2	1	6	0	28
アルバイト	10	5	4	5	3	5	4	5	7	6	7	1	62
ホストファミリー	80	22	3	6	0	23	46	22	3	3	6	4	218
ホームステイ	4	1	5	12	4	2	1	1	3	6	19	0	58
海外留学相談	10	14	5	7	6	7	10	5	12	2	8	1	87
問い合わせ(学外)	75	58	80	80	21	76	123	96	70	83	101	60	923
その他	3	1	6	3	2	1	2	1	1	0	0	1	21
計	811	512	318	303	133	367	623	483	380	389	446	359	5124

相談対応件数推移

年度	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
件数	2877	3496	3461	4125	4246	5163	5280	5366	5405	5124

＊　ここでいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含め）を示す。

来室者数推移

年度	H15	H16	H17
件数	16450	17848	17996

2．留学生交流情報室「IRIS」の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	人数計
留学生	1655	1620	1702	1562	733	721	1469	1535	1445	1433	1218	1010	16103
日本人学生	103	98	105	91	58	76	86	82	62	68	60	65	954
その他・一般	102	65	88	101	119	54	48	98	66	84	69	45	939
計	1860	1783	1895	1754	910	851	1603	1715	1573	1585	1347	1120	17996

＊ ここでいう「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数を示す。
＊「その他・一般」はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティア等である。

表2　大阪大学留学生センター豊中分室の相談対応状況及び来室・利用人数

項目　＼　月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交　流	55	15	79	53	49	36	44	32	14	95	14	8	494
日本語	60	44	10	5	3	14	50	12	2	9	8	7	224
奨学金	16	14	5	6	3	6	3	8	1	8	3	8	81
保証人	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	9
住居保証人	4	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	1	12
医　療	3	5	4	5	1	0	0	4	0	6	3	1	32
入管関係	3	0	1	0	1	0	2	0	1	3	3	0	14
家族について	1	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	1	7
就　職	8	0	0	14	0	2	0	0	0	1	0	4	29
住　居	6	9	2	2	10	11	3	2	2	17	28	16	108
各種情報提供	65	48	70	46	14	27	71	52	7	47	9	27	483
生活用品	14	0	8	6	2	2	9	2	0	2	0	3	48
学習・研究	60	35	28	22	10	3	4	12	9	11	5	6	205
事故・トラブル	0	3	3	3	0	0	0	0	2	4	7	1	23
引　越	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	4
アルバイト	3	2	1	3	3	4	3	2	0	6	7	2	36
ホストファミリー	7	11	0	2	0	0	2	1	2	1	0	0	26
ホームステイ	0	2	0	2	2	3	2	0	0	2	0	0	13
海外留学相談	29	29	34	26	11	10	12	27	9	11	15	3	216
問合わせ（学外）	3	7	9	13	1	3	4	5	0	1	7	3	56
その他	35	8	21	16	11	12	13	9	15	12	8	14	174
合計	373	233	277	234	123	135	223	169	66	239	117	105	2294

相談対応件数推移

年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17
件数	909	2053	2607	3056	2843	2294

＊ ここでいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話も含め）を示す。

来室者数推移

年度	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
年間利用者数	1276	2362	4533	5379	8258	10028	9575	8320	7524

２．豊中分室の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	676	564	601	515	156	138	561	494	363	400	163	126	4757
日本人学生	110	110	116	124	30	50	123	178	98	141	73	34	1187
教官・学外など	180	159	183	151	57	40	145	203	158	133	103	68	1580
合計	966	833	900	790	243	228	829	875	619	674	339	228	7524

(3) 学生交流支援

学生支援についてはＢ．Ｓ．Ｐ．（Brothers and Sisters Program）や大阪大学留学生会（ＯＵＩＳＡ）の活動の支援を引き続き行った。表３にＢ．Ｓ．Ｐ．の活動、表４に大阪大学留学生会の活動を記す。

表3　平成17年度　B.S.P.の主な活動内容

＜定例ミーティング＞
＊吹田B.S.P.
４月～12月：毎週木曜日４時半～６時
１月～３月：毎週水曜日お昼休み
＊豊中B.S.P.
不定期

＜主な活動内容＞

月	日	内容	共催団体他
4	7	留学生出迎え、各種手続き同行、キャンパスツアー	
4	22	ウエルカムパーティー	
5	14	吹田国際交流フェスティバルに出店	留学生会共催
5	20	ハンガリアンパーティー	
5	27	WWWパーティー（歓迎会）豊中キャンパス	留学生会、生協留学生チーム、Σ留学生会共催
6	17	Korean Dinner	
7	1	七夕パーティー（豊中）	
7	7	七夕まつりと流しそうめん	
9	23	フランス・モンペリエ大学へ海外研修（～ 9月29日）	フロンティア研究機構「学生チャレンジシッププログラム」助成
9	22	留学生出迎え、各種手続き同行、キャンパスツアー	
10	6	留学生出迎え、各種手続き同行、キャンパスツアー	
10	8	大阪大学留学生会スポーツ大会	留学生会主催
10	9	大阪大学留学生会スポーツ大会	留学生会主催
10	12	留学生のためのバザー	留学生センター・Host Family Group Amigo共催
10	28	ウエルカムパーティー	留学生会共催
11	11	中国料理パーティー	
11	19	紅葉狩り（万博公園）	
12	17	イヤーエンドパーティー	留学生センター・Host Family Group Amigo共催
1	11	書き初めとお雑煮	
1	12	新年会（豊中）	
1	16	フランスモンペリエ大学報告会	
2	3	節分豆まきと巻き寿司丸かぶり	
2	17	ぎょうざパーティー（豊中）	
3	18	送別会（豊中）	
3	25	送別会（吹田）	

表4　平成17年度大阪大学留学生会（OUISA）主な活動

月	日	内容	場所	共催団体、内容他
4	5	役員会(1)	吹田キャンパス	
4	7	新留学生へのオリエンテーション	吹田キャンパス	
4	19	役員会(2)	吹田キャンパス	
4	22	留学生会総会、ウエルカムパーティー	吹田キャンパス	
5	6	役員会（豊中）(3)	豊中キャンパス	
5	14	吹田国際交流フェスティバル出店	吹田メイシアター	吹田BSP
5	27	WWWパーティー	豊中キャンパス	BSP、生協留学生チーム、Σ留学生会
5	31	役員会(4)	吹田キャンパス	
6	10	役員会（豊中）(5)	豊中キャンパス	
6	28	役員会（豊中）(6)	豊中キャンパス	
7	1	スローガンコンテスト（豊中）	豊中キャンパス	
7	19	役員会(7)	吹田キャンパス	
7	25	天神祭船渡御参加		代表４名参加
8	11	役員会（豊中）(8)	豊中キャンパス	
8	16	役員会(9)	吹田キャンパス	
9	21	新留学生へのオリエンテーション	吹田キャンパス	
10	4	役員会(10)	吹田キャンパス	
10	6	新留学生へのオリエンテーション	吹田キャンパス	
10	7	役員会(11)	吹田キャンパス	
10	8	大阪大学留学生会スポーツ大会	吹田キャンパス	
10	9	大阪大学留学生会スポーツ大会・懇親会	吹田キャンパス	
10	25	役員会(12)	吹田キャンパス	
10	28	ウエルカムパーティー	吹田キャンパス	吹田BSP
11	6	パキスタン地震募金活動（待兼祭）	豊中キャンパス	
11	13	パキスタン地震募金活動（中之島祭）	吹田キャンパス	
11	15	役員会(13)	吹田キャンパス	
11	22	パキスタン地震募金活動	吹田キャンパス	
11	24	パキスタン地震募金活動	豊中キャンパス	
12	9	留学生のための就職セミナー	吹田キャンパス	
12	20	役員会(14)	吹田キャンパス	
1	17	役員会(15)	吹田キャンパス	
1	24	新年度役員募集開始	吹田キャンパス	
2	21	役員会(16)	吹田キャンパス	
3	1	大阪大学地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会	吹田キャンパス	留学生会の活動報告
3	24	阪大坂銘板除幕式並びに歩道渡り初参加	豊中キャンパス	テープカット

(4) 学内連携

留学生センターは学内の部局の留学生関係者との連携も引き続き実施した。部局の留学生相談室フロントスタッフと連携した組織「大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク」ミーティングを定例で4回実施し、それ以外にも必要に応じて電話やメール等で連絡や意見交換を行った。平成１７年7月１５日の留学生センター連絡・交換会においては、このフロントスタッフネットワークから、留学生支援に関してこれまで懸案となってきた６項目（１．奨学金、２．留学生基金、３．研究生の民間アパート賃貸にかかる機関

保証、４．非正規生のＩＤ、５．国費留学生のアルバイト許可、６．託児所の拡充）について提案を行った。これらの中にはその後関係者の協力を得て、改善もしくは実現の方向へと動き出すこととなったものもある。

２．地域との連携

(1) 留学生支援ボランティアとの連携

留学生センターは地域との連携も引き続き行った。ホストファミリープログラムについては大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会を年2回開催し、留学生の来日時期に合わせて、ホストファミリーの組み合わせの連絡調整や、ホストファミリープログラム等に関する意見交換を行った。またホストファミリーや地域のボランティアや関係者との連絡を引き続き緊密に取った。表５に平成17年度までの団体別のホストファミリーと留学生の組み合わせ数を載せた。

また第14回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会を平成18年３月１日に実施し、人間科学研究科平沢安政教授による講演「国際化とボランティア」と、みのお外国人医療サポートネット代表埋橋淑子氏による報告「外国人への保健・医療サポートに取り組んできて」を行い、意見交換及びその後の懇談を通して、大阪大学と地域の関係者及び関係者間のネットワークと連携を引き続き行った。当日は学内42名、学外143名、合計185名の出席者を得た。

表５　大阪大学留学生ホストファミリープログラム組み合わせ団体別

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	計
ホストファミリーグループアミーゴ	4	7	8	8	7	15	8	16	8	12	11	11	115
茨木市国際親善都市協会	4	13	12	8	11	18	8	7	8	11	7	12	119
㈶とよなか国際交流協会	0	18	15	7	17	20	19	14	19	27	16	14	186
㈶箕面市国際交流協会	0	10	6	11	12	10	6	11	15	16	13	10	120
池田ホームステイ友の会	0	12	11	7	9	10	7	9	11	9	15	10	110
㈶吹田市国際交流協会	0	1	18	7	23	19	12	14	20	14	9	16	153
国際交流の会とよなか／TIFA	0	1	6	9	9	9	10	9	13	11	25	20	122
川西市国際交流協会*1									11	13	14	9	47
留学生さとおやの会*2												5	5
OHP/IRIS に直接登録	3	3	6	5	8	17	20	17	20	2	5	6	112
計	11	65	82	62	96	118	90	97	125	115	115	113	1089

＊1 川西市国際交流協会のメンバーと留学生とのホストファミリー組み合わせは平成 14 年 10 月開始

＊2 留学生さとおやの会のメンバーと留学生とのホストファミリー組み合わせは平成 17 年 4 月開始

(2) 国際理解教育への協力

また、地域の学校における国際理解教育プログラムへの協力も引き続き実施した。表６に平成17年度に国際理解教育プログラムにおいて協力した学校名、派遣した留学生数を載せた。

大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会において近隣の市町の教育委員会とも連携しつつ、地域の小中高等学校へ留学生を派遣した。学校からの依頼に対して、学校交流ボランティアに登録している留学生にメール等で案内を出し、希望者を募り、学校側と留学生との事前打ち合わせを行うとともに、実施後、報告書提出を行うというプロセスを経て、きめ細かな対応をしてきた。さらに平成17年度は大阪府教育委員会に協力して、教員の初任者研修―社会体験プログラムを行った。留学生センターにおいてこのプログラムを７月28－29日に実施し、講義や留学生とのディスカッション等を行った。このプログラムには17名の新任教員が参加した。

表6　平成17年度「国際理解教育」協力状況

月	日	市	学校/プログラム名	派遣人数	派遣国
7	8	茨木市立	三島中学校	4	中国・韓国・フィリピン・インドネシア
8	23		東大谷高等学校	3	ベトナム・韓国・ブルガリア
9	12	箕面市立	西小学校	1	ブルガリア
9	13	茨木市立	茨木小学校	10	中国・韓国・マレーシア
9	16	摂津市立	第三中学校	6	エジプト・スリランカ・ブルガリア・中国・マレーシア
10	17	伊丹市立	昆陽里小学校	1	中国
10	24	茨木市立	東雲中学校	7	ブルガリア・インドネシア・スリランカ・中国・韓国
10	26	大阪府立	北淀高等学校	10	韓国・ネパール・ブラジル・スリランカ・ブルガリア
10	28	茨木市立	耳原小学校	5	イラン・内モンゴル・ネパール・スリランカ・ブルガリア
10	31	伊丹市立	昆陽里小学校	1	スリランカ
11	14	伊丹市立	昆陽里小学校	1	ブルガリア
11	15	枚方市立	第四中学校	2	シンガポール・バングラディシュ
11	16	宝塚市立	宝塚小学校	6	カナダ・ロシア・中国・ベルギー・ブラジル・ミャンマー
11	17	茨木市立	北辰中学校	4	韓国・フィリピン・インドネシア・中国
11	19	豊中市立	第九中学校	8	スリランカ・ネパール・インドネシア・シンガポール・韓国・中国
11	24	茨木市立	庄栄小学校	6	韓国・中国・スリランカ・ブルガリア・内モンゴル
11	24	大阪府立	茨木高等学校	1	モンゴル
11	25	豊中市立	東豊台小学校	4	韓国
11	30	宝塚市立	宝塚小学校	6	カナダ・ロシア・中国・ベルギー・ブラジル・ミャンマー

12	1	摂津市立	千里丘小学校	6	韓国・中国・インドネシア・ブルガリア
12	2	伊丹市立	昆陽里小学校	3	カナダ・韓国
12	5	伊丹市立	昆陽里小学校	2	イラン・ネパール
12	6	箕面市立	中　小　学　校	4	ネパール・中国・インドネシア
12	7	茨木市立	太田中学校	4	ネパール・ブルガリア・ブラジル・インドネシア
12	9	伊丹市立	昆陽里小学校	4	キューバ・カナダ・韓国
12	14	箕面市立	中　小　学　校	10	ミャンマー・ブルガリア・韓国・キューバ・ネパール・インドネシア
1	16	箕面市立	西　小　学　校	1	ミャンマー
1	18	摂津市立	千里丘小学校	2	ロシア・ブラジル
1	19	吹田市立	千里第三小学校	1	ヨルダン
1	20	茨木市立	中条小学校	12	中国・ベトナム・フィジー・インドネシア・ミャンマー・マレーシア
1	21	大阪府立	茨木高等学校	1	チュニジア
1	31	宝塚市立	宝塚小学校	10	フランス・中国・インドネシア・マレーシア・ミャンマー・韓国・タイ
2	7	茨木市立	清渓小学校	13	アメリカ・ベルギー・インドネシア・ミャンマー・中国
2	9	豊中市立	熊野田小学校	2	インドネシア・ミャンマー
2	9	吹田市立	豊津第一小学校	5	中国
2	10	吹田市立	豊津第一小学校	7	中国
2	21	茨木市立	玉櫛小学校	4	ロシア・中国・ベトナム
2	22	高槻市立	南大冠小学校	5	カナダ・ヨルダン・中国・韓国
2	24	豊能町立	東能勢中学校	4	中国・インドネシア・ロシア

合計：41校／189名

Ⅶ. その他の活動

１．ＦＤ

留学生センターは大学教育実践センターと協力して、両センター及び部局の教員９名による「大学の国際化推進のためのＦＤワークショップ―教育の国際標準を学ぶ―」実施委員会を構成し、一連のＦＤ関連企画を実施した。これらのＦＤ企画実施について平成18年３月に報告書を発行した。

○　2005年９月１日（木）午後１時30分―５時
　ＦＤフォローアップセミナー
　参加者数　６名

○　2005年９月２日（金）午後１時30分―５時
　ＦＤセミナー
　「大阪大学の国際化推進のためのＦＤセミナー―大阪大学における教育の国際化を目指す―ＦＤの取り組みを通して―」
　参加者数　29名

○　2005年９月５日（月）―９月９日（金）
　ＦＤワークショップ
　「教育の国際化推進のためのＦＤワークショップ―教育の国際標準を学ぶ―」
　参加者数　７名

２．各種行事

・　2005年５月24日　　第４回大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会
　　参加者：　８名

・　2005年５月31日－６月１日
　　日本語プログラム外部評価
　　プリンストン大学東アジア学科日本語学科教授で全米日本語教師会元会長である牧野成一教授による留学生センター日本語プログラムの評価活動。

・　2005年７月15日　　留学生センター連絡交換会
　　於：　コンベンションセンター　会議室２

・　2005年８月31日　　大阪大学ホストファミリープログラム連絡協議会
　　参加者：　21名

・　2006年１月13日　　第26回大阪大学留学生教育・支援協議会
　　平成17年度第２回国立大学法人留学生センター指導研究協議会
　　於：　千里朝日阪急ビル14階　第２会議室
　　学内参加者：　19名、　学外からの参加者：　61名、　合計：　80名

・　2006年１月13日　　大学の国際化－評価指標の提案と検証
　　於：　千里朝日阪急ビル　Ａ＆Ｈホール

・　2006年３月１日　　大阪大学ホストファミリープログラム連絡協議会
　　参加者：　24名

・ 2006年３月１日　　大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会
於：　銀杏会館３階ホール
学内参加者：　42名、ボランティア等学外参加者：　143名、合計：　185名

３．研修事業

・ 2005年７月28日－７月29日
大阪府教育委員会初任者研修－社会体験プログラム
研修生：　17名

・ 2005年12月12日－2006年２月28日
(財)海外日系人協会　日系研修員の受入れ
研修員：　１名、　受入れ教員：　西口光一教授

４．海外出張・海外研修

○　海外出張

・ 2005年５月28日－６月３日　　古城紀雄教授、近藤佐知彦助教授、アメリカのシアトルに出張
ＮＡＦＳＡコンファレンスに参加するため

・ 2005年８月17日－９月17日　　西村謙一助教授、フィリピンのマニラに出張
科学研究費補助金（基盤研究(B)）の調査のため

・ 2005年８月25日－８月30日　　大谷晋也助教授、韓国の済州道に出張
立教大学・同徳女子大学（韓国）の合同セミナーに参加するため

・ 2005年９月20日－９月22日　　村岡貴子教授、韓国のソウルに出張

・ 2005年10月22日－10月30日　　近藤佐知彦助教授、オランダのグローニンゲンおよびイギリスのロンドンに出張
海外提携大学の交換留学に関するニーズ調査およびグローニンゲン教育研究センター開所式への参加のため
（平成17年度大阪大学教育研究環境の国際化促進調査事業による）

・ 2005年10月31日－11月４日　　北浜榮子教授、有川友子助教授、米国のロサンジェルス、サンタバーバラおよびシアトル、カナダのバンクーバーに出張
海外提携大学の交換留学に関するニーズ調査のため

・ 2005年11月４日－11月９日　　三牧陽子教授、タイのバンコクに出張
日本留学フェアの業務のため

・ 2005年11月５日－11月９日　　村岡貴子教授、難波康治助教授、タイのバンコクに出張
大阪大学への留学を希望するタイ人学生の日本語教育ニーズに関する調査のため
（平成17年度大阪大学教育研究環境の国際化促進調査事業による）

・ 2005年12月１日－12月５日　　有川友子助教授、米国ワシントンDCに出張
American Anthropological Association Annual meetingにて口頭発表のため

・ 2006年３月９日－３月25日　　西村謙一助教授、フィリピンのマニラに出張
科学研究費補助金（基盤研究(B)）の調査のため

・ 2006年３月13日－３月18日　　北浜榮子教授、英国のレディング、オックスフォードおよびロンドンに出張
英国におけるサイエンス・コミュニケーション活動に関する調査研究のため

○　海外研修

・　2005年12月16日－12月19日　　吉村裕美講師、中国の広州
国際シンポジウム参加のため（研究発表並びに司会）

５．出版物・印刷物等（2005年5月から2006年5月まで）

No.	出版物のタイトル	発行年月
1	大阪大学留学生センターNEWS LETTER 第11号	2005年5月
2	OUSSEP2006-2007 CALENDAR	2006年1月
3	OUSSEP2006-2007 SYLLABUS	2006年1月
4	大阪大学短期留学特別プログラム OUSSEP の今後のあり方に関する検討結果報告書	2006年3月
5	留学生日本語プログラム履修ガイド 2006年度 Japanese Language Program for International Students 2006 Academic Year	2006年3月
6	大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流 第10号 Journal of Multicultural Education and Student Exchange No.10	2006年3月
7	大阪大学留学生センター 2005年度年報	2006年3月

６．いちょう日本語

いちょう日本語プログラムとは、平成16年度より新たに始まった生活日本語のプログラムである。対象は、外国人研究者や、留学生など大阪大学構成員の配偶者などで日本語学習を必要とする人々である。日本語の学習機会の提供と同時に、情報交換の場を提供する役目も果たしている。今年度より有料化された。

○　クラスと担当者

Ａクラス（入門）　八木　水３・木３［吹田］
Ｂクラス（初級）　嶋津　水３／服部　木３［吹田］
Ｃクラス（中級）　御子神　水４／重川　木４［吹田］
漢字クラス　　神吉　火３［豊中］※漢字パートナー（ボランティア）も参加
コーディネータ（ＷＧメンバー）　◎吉村、西口、有川、近藤

○　参加者数

いちょう日本語17年度参加者数

春学期　※漢字のみの参加者はなし

	研究者	配偶者	留学生	合計
Ａクラス	3	2	0	5
Ｂクラス	7	4	1	１２
Ｃクラス	6	１１	1	１８
漢字クラス	0	5	1	6

秋学期　※漢字のみの参加者１名

	研究者	配偶者	留学生	合計
Ａクラス	3	1	2	6
Ｂクラス	6	１７	2	２５
Ｃクラス	6	2	3	１１
漢字クラス	0	１０	1	１１

Ⅷ. 教員個人データ

【記載事項】
1．専門分野
2．授業担当 (1)共通教育 (2)大学院 (3)留学生日本語プログラム (4)国際交流科目
3．学生指導 (1)博士後期課程 (2)博士前期課程 (3)日本語研修生 (4)短期留学特別プログラム (5)日韓共同理工系学部留学生予備教育生
4．教育（学外）　5．学内運営　6．外部資金
7．研究業績 (1)論文 (2)著書 (3)口頭発表 (4) その他
8．学外運営　9．会議運営　10．講演会　11．報道　12．その他

※ 50音順。７の(1)論文と(3)口頭発表の記載の末尾にある「有」「無」は、査読の有無。

有川友子

1．専門分野　教育人類学、異文化間教育学

2．授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

多文化コミュニケーションI-3/II-3、同セミナーC

○ 秋学期

多文化コミュニケーションI-6/II-6、同セミナーF

(2) 大学院

○ 春学期

生涯教育学特定演習I（共同）

○ 秋学期

生涯教育学特定演習II（共同）

人類学特定演習II（共同）

(4) 国際交流科目

○ 春学期

Approaches to Understanding Cultures

3．学生指導

・ 留学生の相談対応
・ 留学についての相談対応

5．学内運営

・ 国際交流委員会交換留学選考委員会
・ 国際交流委員会国際学生交流推進事業WG
・ 国際交流委員会留学生奨学金申請等の選考基準等検討WG
・ 国際交流委員会GCN-OSAKA/WW推進検討WG

・ 人権問題委員会民族問題小委員会委員長
・ セクシュアル・ハラスメント相談室全学相談員
・ 留学生センター人権・セクシュアルハラスメント対策委員会
・ 「大学の国際化推進のためのFDワークショップ－教育の国際標準を学ぶ－」実施委員会委員長

6．外部資金

・ 科学研究費補助金「大学国際化の指標策定に関する実証的研究」（代表：古城紀雄）における研究分担者

7．研究業績

(3) 口頭発表

・ 留学生教育を語る－留学生として、教員として、研究者として－、有川友子、異文化間教育学会第26回大会・特定課題研究「異文化間教育の語り直し－他者・境界・分節化」、異文化間教育学会、2005年5月、無
・ Creating Educational Communities in Indonesia and Japan, Tomoko Arikawa, 応募、American Anthropological Association 2005 Meeting, American Anthropological Association, 2005年12月、無
・ Communities, Constructed and Imagined, by International Students, Tomoko Arikawa, 応募、American Anthropological Association 2005 Meeting, American Anthropological Association, 2005年12月、有

(4) その他

・ 『平成17年度「大学国際化推進のためのFD－教育の国際標準を学ぶ－」報告書』、2006年3月、「大学の国際化推進のためのFDワークショップ－教育の国際標準を学ぶ－」実施委員会、報告、無

9．会議運営

・ 大阪大学留学生教育・支援協議会、運営、大阪大学留学生センター、2006年1月
・ 大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学留学生センター、2006年3月

10．講演会

・ 大学の教育の国際標準化－北米スタンダードによるFDを通して考える、大阪大学大学院工学研究科主催：FD講演会、2006年2月14日

大　谷　晋　也

1．専門分野　応用言語学、言語社会学、文献学

2．授業担当

(1) 共通教育

○　春学期

日本語 I-1/II-1

○　秋学期

日本語 I-4/II-4

(2) 大学院

○　春学期

言語文化教育論A

○　秋学期

言語文化教育論B

(3) 留学生日本語プログラム

○　春学期

日本語研修コースAクラス

漢字と語彙 JK101

○　秋学期

日本語研修コースAクラス

漢字と語彙 JK101

3．学生指導

(1) 博士後期課程　3（うち留学生は1）

(2) 博士前期課程　3（うち留学生は1）

(3) 日本語研修生　27

5．学内運営

・　情報ネットワークシステム委員会

・　情報ネットワーク小委員会

6．外部資金

・　科学研究費補助金萌芽研究　課題番号：17652053　平成17年度～平成19年度「外国人に対する医療支援に関するエスノグラフィー調査およびリソース開発」、研究代表者

・　科学研究費補助金基盤研究(C)　課題番号：14580330　平成14年度～平成17年度「種々の理系専門分野における日本語論文作成方法の指導に関する基礎的研究」(研究代表者：村岡貴子)、研究分担者

・　科学研究費補助金基盤研究(C)　課題番号：16520327　平成16年度～平成18年度「ニューカマーの子どもと日本社会との相互適応プログラムの開発研究」(研究代表者：山田　泉)、研究分担者

7．研究業績

(1) 論文

・　「農学系・工学系日本語論文の「緒言」の論理展開分析－形式段落と構成要素の観点から－」、村岡貴子・米田由喜代・因京子・仁科喜久子・深尾百合子・大谷晋也、応募、『専門日本教育研究』第7号、専門日本語教育学会、2005年12月、論文、有

(3) 口頭発表

・ 「理系日本語論文結論部の構成と表現－日本語教育での論文作成支援を考える新たな視点から－」、村岡貴子・米田由喜代・因京子・仁科喜久子・深尾百合子・大谷晋也、応募、日本語教育学会秋季大会、2005年10月、有

・ 「日本語論文作成支援リソース再考－理系専門日本語教育の観点から－」、因京子・大谷晋也・仁科喜久子・深尾百合子・米田由喜代・村岡貴子、応募、第８回専門日本語教育学会研究討論会、2006年３月、有

8．学外運営

・ 国・地方公共団体、大阪市教育国際化推進協議会（委員）、大阪市教育委員会、2004年12月～2006年３月

・ 国・地方公共団体、大阪市不就学外国人児童生徒支援事業委員会（座長）、大阪市教育委員会、2005年７月

・ その他、日本文学データベース研究会（代表世話人）、1996年12月

・ その他、西日本国語国文学データベース研究会（世話人）、1992年10月

12. そ の 他

・ 「帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域」事業　研究発表会（主催：大阪市教育委員会・大阪市教育国際化推進協議会）第一分科会（テーマ：教科学習へ対応した日本語指導）において助言者を務めた。

・ 科学研究費補助金研究成果報告書：基盤研究(C)　課題番号：14580330　平成14年度～平成17年度「種々の理系専門分野における日本語論文作成方法の指導に関する基礎的研究」（研究代表者：村岡貴子）2006年３月

北浜榮子

1．専門分野　教育の国際化、科学教育、科学コミュニケーション、高分子固体構造論

2．授業担当

(1) 共通教育

日本語Ⅰ-3/Ⅱ-3

日本語Ⅰ-6/Ⅱ-6

多文化コミュニケーションⅠ-1/Ⅱ-1

多文化コミュニケーションセミナーA－サイエンスコミュニケーション－

(3) 留学生日本語プログラム

理系専門日本語総合JT504（春学期）

理系専門日本語総合JT504（秋学期）

(4) 国際交流科目

Current Scientific and Engineering Topics －Technical Japanese A: Part I－

（最近の科学・技術の話題－科学技術日本語Ⅰ－）

Technical Communication for Understanding Scientific and Technological Issues －Technical Japanese A: Part II－

（科学・技術の話題を理解するためのテクニカル・コミュニケーション－科学技術日本語Ⅱ－）

3．学生指導

- 大阪大学短期留学特別プログラム　33（春学期）
- 大阪大学短期留学特別プログラム　25（秋学期）

5．学内運営

- 大阪大学大学院工学研究科、担当、1997年4月
- 大阪大学総合学術博物館、兼任、2002年4月
- 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター、兼任、2005年4月
- 大阪大学サイバーメディアセンターマルチメディア教育委員会、委員、2004年4月～2006月3月
- 国際交流委員会、委員、2004年7月
- 国際交流委員会交換留学選考委員会、委員、2004年
- 国際交流委員会OUSSEP検討ワーキンググループ、委員、2005年7月～2006年3月

6．外部資金

- OUSSEP科学技術日本語プログラム（企画：北浜榮子）、学外施設見学ツアーにかかる諸費用負担協力、財団法人社会経済生産性本部『フォーラム・エネルギーを考える』
- 科学研究費補助金基盤研究(A)(2)「大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究」（代表：古城紀雄）、研究分担者

7．研究業績

(1) 論文

- 「交換留学生のための教育カリキュラムの設計に関する研究 ― 学生による授業評価の統計的分析に基づいて―」、北浜榮子・天寄聡介、応募、『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』、第10号、1-20、2006年3月、学術論文、有
- 「留学交流における多様性の価値(Ⅰ) ―大阪大学短期留学特別プログラムOUSSEPの10年―」、

北浜榮子、招待、『生産と技術』、58(2)、62-66、2006年4月、学術論文

・ 「特集：大学の国際化、再考・これからの大学教育の国際化に求められるもの」、北浜榮子、 招待、『留学交流』、 17(1)、8-11、2005年1月、学術論文

(3) 口頭発表

・ Data Mining through Cluster Analysis -Evaluation on Internationalization of 115 Universities in Japan-（クラスター分析によるデータマイニング －日本の115大学の国際連携交流活動に関する評価－）、北浜榮子、招待、国際シンポジウム・大学の国際化－評価指標の提案と検証、同シンポジウム実行委員会、2006年1月14日

(4) その他

○ 報告書

・ 「Chapter 4: Evaluation on the Internationalization of Universities in Japan Section 2: Quantitative Analysis on University Evaluation concerning International Exchange Activities of 115 Universities/Institutions（第4章: 日本における国際化評価　第2節: 115大学の国際交流活動に関する大学評価の計量学的分析）」、北浜榮子、『科学研究費補助金基盤研究（A）（２）『大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究』平成16年度研究活動報告書』、同科研費プロジェクト、2006年3月、科研費報告書

・ 『大阪大学短期留学特別プログラムOUSSEPの今後のあり方に関する検討結果報告書』、北浜榮子・近藤佐知彦、大阪大学国際交流委員会OUSSEP検討ワーキンググループ、2006年３月、委員会報告書、分担執筆

8．学外運営

・ 事業担当幹事、専門日本語教育学会、2005年4月

・ 理事長、特定非営利活動法人科学と市民社会のコミュニケーション、2004年12月

・ 客員研究員、大学法人広島大学留学生センター、2002年4月

・ メンバー、財団法人社会経済生産性本部『フォーラム・エネルギーを考える』、1993年

9．会議・講演会運営

・ 2006年度専門日本語教育学会第8回研究討論会、同実施委員会委員・司会、専門日本語教育学会、2006年3月4日、東京農工大学で開催

・ 市民科学教育啓発フォーラム・カフェ・シアンティフィック「実験科学講座・ファミリーで台所を科学しよう、食材の不思議、なぜ固まるの？」、コーディネーター・司会、特定非営利活動法人科学と市民社会のコミュニケーション、2006年2月26日、宝塚市立西公民館で開催・子どもゆめ基金助成金事業（独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター）

・ 国際シンポジウム（大学の国際化－評価指標の提案と検証）、同実行委員会メンバー、『大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究』科研費プロジェクト、2006年1月14日、千里朝日阪急ビルで開催

・ 市民科学教育啓発フォーラム・カフェ・シアンティフィック「実験科学講座・ファミリーで立体凧作り、凧の不思議」、コーディネーター、特定非営利活動法人科学と市民社会のコミュニケーション、2005年12月11日、宝塚市勤労市民センターで開催・子どもゆめ基金助成金事業（独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター）

・ イベント『My Country, My University』、コーディネーター、大阪大学留学生センター短期留学担当、2005年10月19日

・ 2005年秋学期国際交流科目授業担当教員向けオリエンテーション、コーディネーター、大阪大学留学生センター短期留学担当、2005年10月

・　青少年のための科学博覧会サイエンスフェア2005、コーディネーター、特定非営利活動法人科学と市民社会のコミュニケーション（後援：宝塚市、宝塚市教育委員会、宝塚市PTA協議会、特定非営利活動法人宝塚NPOセンター）、2005年9月10日・11日、宝塚市教育総合センター・アピアホールで開催・子どもゆめ基金助成金事業（独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター）

・　市民科学教育啓発フォーラム・カフェ・シアンティフィック「身近な環境学・家庭ごみを燃やすと…－安心･安全なくらしにつながるごみ焼却－」、コーディネーター・モデレーター、特定非営利活動法人科学と市民社会のコミュニケーション（後援：宝塚市、宝塚市教育委員会、特定非営利活動法人宝塚NPOセンター）、2005年6月19日、宝塚市立男女共同参画センターで開催・子どもゆめ基金助成金事業（独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター）

・　2005年春学期国際交流科目授業担当教員向けオリエンテーション、コーディネーター、大阪大学留学生センター短期留学担当、2005年４月8日

10. 講　演　会

・　青少年のための科学博覧会サイエンスフェア2005、科学回廊「フルーツ電池・人間電池」、特定非営利活動法人科学と市民社会のコミュニケーション（後援：宝塚市、宝塚市教育委員会、宝塚市PTA協議会、特定非営利活動法人宝塚NPOセンター）、2005年9月10日・11日、宝塚市教育総合センターおよび逆瀬川アピアホールで演示実験と講演

・　市民科学教育啓発フォーラム・カフェ・シアンティフィック、「実験科学講座・ファミリーで立体凧作り、凧の不思議」、特定非営利活動法人科学と市民社会のコミュニケーション、2005年12月11日、宝塚市勤労市民センターで講演

・　市民科学教育啓発フォーラム・カフェ・シアンティフィック、「実験科学講座・ファミリーで台所を科学しよう、食材の不思議、なぜ固まるの？」、特定非営利活動法人科学と市民社会のコミュニケーション、2006年2月26日、宝塚市立西公民館で講演

11. 報　　道

・　FM宝塚、2005年8月28日18:25、「話してみれば」、河西鈴子氏との対談、提供は宝塚市

・　FM宝塚、2005年9月11日11:20、「サンデーハミングサークル・宝塚探検隊」、青少年のための科学博覧会サイエンスフェア2005会場（アピアホール）での取材

12. そ　の　他

・　印刷物編集、『大阪大学短期留学特別プログラムOUSSEPの今後のあり方に関する検討結果報告書』、大阪大学国際交流委員会OUSSEP検討ワーキンググループ、2005年12月

・　印刷物編集、『OUSSEP 2006-2007 Calendar』、大阪大学国際交流委員会、2005年11月

・　印刷物編集、『OUSSEP 2006-2007 Syllabus』、大阪大学国際交流委員会、2005年11月

・　印刷物編集、『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第10号、大阪大学留学生センター広報出版委員会、2005年9月

・　学外施設見学ツアー企画・実施、(株)トヨタ自動車元町工場およびトヨタ会館、OUSSEP科学技術日本語プログラム、2005年6月15日

・　学外施設見学ツアー企画・実施、大阪市環境事業局舞洲工場および大阪市都市環境局舞洲スラッジセンター、OUSSEP科学技術日本語プログラム、2005年5月18日

・　ホームページ管理、OUSSEPウェブサイト、大阪大学留学生センター短期留学担当、1997年4月

・　サーバ管理・メーリングリスト運営、OUSSEPメーリングリスト、大阪大学留学生センター短期留学担当、1997年4月

近　藤　佐知彦

1．専門分野　社会心理学、社会学、ディスコース分析、留学生教育

2．授業担当

(2) 大学院

○　秋学期

人類学特定演習（人間科学研究科）

(4) 国際交流科目

○　春学期

日本の社会とイデオロギー

○　秋学期

日本のメディアとコミュニケーション

3．学生指導

(4) 短期留学特別プログラム　春学期32名；秋学期25名

4．教育（学外）

・　メディア教育開発センター客員助教授

5．学内運営

・　OUSSEP検討WG

・　ワンストップサービス検討WG

7．研究業績

(1) 論文

・　「あたらな短期留学プログラム構築への提言－本学交換留学プログラムの現状とあわせて－」近藤佐知彦、応募、『多文化社会と留学生交流』第9号、35-50、解説・総説、無

(2) 著書

・　『日本語力』馬場真知子・田中佳子・瀬村絵里子・小山秀典・近藤佐知彦、リメディアル教材・ワークブック、編集・印刷中、旺文社

(3) 口頭発表

・　'Evaluation Criteria for University Internationalization'、Furushiro, N; Kondo, S; Miriam, J; Ota, H、応募、 2005 NAFSA Annual Conference at Seattle; 2005年5月、有

8．学外運営

・　学会、日本リメディアル教育学会発起人

9．会議運営

・　日本リメディアル学会関西大会実行委員

12．そ　の　他

・　OUSSEP検討WGの一員として、教育研究環境の国際化促進事業の申請をおこない、2100千円の助成を受けた。その資金を以て「交換留学生受け入れ拡大に関わる海外視察、聞き取り調査」を実施した。

・　OUSSEP検討WGの一員として「大阪大学短期留学特別プログラムOUSSEPのあり方に関する検討結果報告書」の執筆をおこなった。

難 波 康 治

1．専 門 分 野　日本語教育学、社会言語学

2．授 業 担 当

(1) 共通教育

○　春学期

日本語I-7

日本語595A

○　秋学期

日本語I-8

日本語595B

多文化コミュニケーションI-5/ II-5

多文化コミュニケーションセミナーE（多文化コミュニケーションI-5/ II-5と合同）

(2) 大学院

○　春学期

応用言語学特論A

○　秋学期

応用言語学特論B

(3) 留学生日本語プログラム

○　春学期

専門読解ワークショップ（非漢字系）JR401/501（日本語I-7と合同）

日本語専門会話JC500

○　秋学期

専門読解ワークショップ（非漢字系）JR401/501（日本語I-8と合同）

(4) 国際交流科目

○　春学期

総合日本語JA400-1

○　秋学期

総合日本語JA300-1

3．学 生 指 導

(1) 博士後期課程　3（うち留学生は1）

(2) 博士前期課程　2（うち留学生は1）

5．学 内 運 営

・　情報システム小委員会

・　GCN推進検討ワーキンググループ

7．研 究 業 績

(1) 論文

・「短期留学生の学習環境に関する調査報告－2名の短期留学生に対するインタビューから」難波康治・菊岡由夏、応募、『多文化社会と留学生交流』第9号、85-96、学術論文

10．講　演　会

・　日本語教育におけるインターフェイスの変革－コンピュータ支援による協同学習の試みをとおして－、銘傳大學2006國際學術研討會「應用語文教育的理論與實際」、2006年3月18日

12．そ　の　他

・　留学生センターウェブサイト管理運営

西　口　光　一

1．専門分野　日本語教育学、認知心理学

2．授業担当

(2) 大学院

○　春学期

応用言語学特論A

言語文化教育論特別研究A

○　秋学期

応用言語学特論B

言語文化教育論特別研究B

(3) 留学生日本語プログラム

○　春学期

専門読解ワークショップ（文系）JR255

漢字と語彙（漢字系）JK252-1

○　秋学期

専門読解ワークショップ（文系）JR255

漢字と語彙（非漢字系）JK251-1

(4) 国際交流科目

○　春学期

総合日本語JA400-2

総合日本語JA400-3

○　秋学期

総合日本語JA300-2

総合日本語JA300-3

3．学生指導

(1) 博士後期課程　4（うち留学生は1）

(2) 博士前期課程　2

4．教育（学外）

・　立命館大学言語情報教育研究科　日本語教育学Ⅶ　（集中講義）

・　京都外国語大学　外国語学研究科　日本語教育研究Ⅲ　（集中講義）

5．学内運営

・　評価委員会

・　吹田地区施設マネージメント委員会

・　OUSSEP検討WG

7．研究業績

(1) 論文

・　「メディアが呈示する日本語教室」、新庄あいみ・西口光一、招待、大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」報告書『言語の接触と混交』、147-180、2006年3月、大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」、学術論文、無

・　「在住外国人は日本社会への新メンバーか」、西口光一、応募、『多文化社会と留学生交流』第10号、解説・総説、無

(2) 著書

・　『文化と歴史の中の学習と学習者』、西口光一、凡人社、2005年５月、専門著書、共著、30-53

・　『例文で学ぶ 漢字と言葉』、西口光一、スリーエーネットワーク、2005年10月、教科書、単著

(3) 口頭発表

・　地域日本語支援活動におけるリテラシーのデザイン、西口光一、応募、国際研究集会ことば・文化・社会の言語教育、同実行委員会、2005年９月、有

・　ヴィゴツキーとバフチンの接点－第二言語教育の立場から、西口光一、招待、ヴィゴツキー学第７回研究大会、ヴィゴツキー学協会、2005年８月、無

8．学外運営

・　国・地方公共団体、大阪府識字・日本語教材作成委員会委員（座長）、大阪府教育委員会、2005年４月

・　国・地方公共団体、大阪市国連識字の10年推進会議専門家委員会委員、大阪市教育委員会、2005年４月

・　その他、日本語教育学校支援事業委員、（特活）関西国際交流団体協議会、2005年４月

・　学会、日本語教育学会理事、（社）日本語教育学会、2002年７月

・　その他、教師教育研究委員会委員、独立行政法人国立国語研究所、2002年４月

10. 講　演　会

・　人権教育推進事業講演会、言葉の壁を越えてつながるために－私たちにできること、松原市人権教育推進協議会・松原市協議会、2006年２月27日

12. そ　の　他

・　ネット上での漢字自主学習システムの開発

市販教材『例文で学ぶ 漢字と言葉』（西口光一著、スリーエーネットワーク）を基礎とした漢字自主学習システム開発し、ＧＣＮ上に開設した。

・　識字・日本語教材『にほんご春夏秋冬　春・夏編』の開発

大阪府識字・日本語教材作成委員会の今年度の成果として、識字・日本語教材『にほんご春夏秋冬　春・夏編』を開発し、出版した。

西　村　謙　一

1．専門分野　比較政治学、東南アジア地域研究、フィリピン研究

2．授業担当

(1) 共通教育

○　春学期

多文化コミュニケーションⅠ-2/Ⅱ-2

多文化コミュニケーションセミナーB

○　秋学期

多文化コミュニケーションⅠ-4/Ⅱ-4

多文化コミュニケーションセミナーD

(2) 大学院

○　秋学期

言語文化国際関係論B

(3) 留学生日本語プログラム

○　春学期

日本語研修コースCクラス

専門日本語プレゼンテーション（文系）JP303/403

○　秋学期

日本語研修コースCクラス

専門日本語プレゼンテーション（文系）JP303/403

(4)　国際交流科目

○　春学期

社会科学日本語Ⅱ

○　秋学期

社会科学日本語Ⅰ：最近の社会・文化の話題

3．学生指導

(3)　日本語研修生　　12

(5)　日韓共同理工系学部留学生（予備教育生）　　5

4．教育（学外）

・　神戸海星女子学院大学　文学部国際英語メディア学科　国際協力論　（集中講義）

5．学内運営

・　日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討WG（日本語科目コーディネーター）

6．外部資金

・　科学研究費補助金基盤研究(B)　課題番号：17402010　平成17年度～平成20年度「フィリピンにおける地方政府のガバナンス－開発評議会の機能を中心に」、研究代表者

7．研究業績

(3) 著書

・　『東アジア都市論の構想』、田坂敏雄編、御茶の水書房、2005年8月、専門著書、共著、335-358

・　『日本政治』、多胡圭一編、大阪大学出版会、2005年10月、教科書、共著、289-293

古 城 紀 雄

1．専門分野　材料物性デザイン工学、超塑性材料工学、留学生教育学

2．授業担当

(2) 大学院

○　秋学期

超塑性材料工学特論（工学研究科マテリアル生産科学専攻マテリアル科学コース）

(3) 留学生予備教育プログラム

○　秋学期

日韓共同理工系学部留学生予備教育ホームルーム

3．学生指導

・　日韓共同理工系学部留学生予備教育プログラム

4．教育（学外）

・　大阪外国語大学大学院「国際交流研究」（春学期）

・　富山大学工学部「超塑性材料工学」（集中講義）

5．学内運営

・　国際交流委員会委員、同日韓理工系学部留学生事業WG座長、同学生海外研修派遣助成プログラムWG座長、同交換留学選考委員会委員、同OUSSEP検討WG

・　国際交流推進本部国際学生交流検討委員会委員

・　学生生活委員会委員（副委員長）

・　情報公開・個人情報保護委員会委員

6．外部資金

・　科学研究費補助金基盤研究Ａ（一般）「大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究」代表者（平成16／17年度）

・　財団法人軽金属奨学会研究助成金

・　留学生センター留学生交流指導部門活動助成金

7．研究業績

(1) 論文

・　Changes in Crystallographic Orientation Distribution during Superplastic Deformation in an AL-Zn-Mg-Cu Alloy. Materials Science and Engineering A410-411(2005) pp.114-119.　学術論文 有

・　A New Cross Rolling for Spreading of Thin Strips and its Application for Texture Control of Aluminum, Proceedingd of The 8th International Conference on Technology of Plasticity Verona,Italy,　(2005) 国際会議論文、有

・　兼子　毅、宇都宮裕、左海哲夫、古城紀雄、齋藤好弘　「従動クロス圧延法による純アルミニウムの変形特性」

『塑性と加工』、2006年、投稿中、学術論文、有

(3) 口頭発表

・　"A New Cross Rolling for Spreading of Thin Strips and Its Application for Texture Control of Aluminium" The 8th International Conference on Technology of Plasticity Verona, Italy,

October 2005 Advanced Technology of Plasticity 2005, ed. By P.F.Bariani, Edizioni Progetto Padova (2005) , pp529-530 & CD-ROM

- "Developing Evaluation Criteria to Assess the Internationalization of Universities", NAFSA Conference, Seattle (2005)

8．学外運営

- 学会　軽金属学会理事、同総務委員長、同評議員、同関西支部長、
- 学会　金属学会・鉄鋼協会関西支部理事、
- 学会　専門日本語教育学会代表幹事
- 学会　国立大学留学生指導研究協議会監査委員
- 学会　日本伸銅協会「銅及び銅合金技術研究会」理事
- 国　文部科学省科学研究費審査委員（2004-2005年度）
- 国　文部科学省国費留学生の選考にかかる調査協力者会議委員、同日韓共同理工系学部留学生事業部会委員
- 国　超塑性特性試験法にかかる国際規格（ISO）委員会国際専門委員
- 国　文部科学省長期留学生派遣制度自然科学分野選考委員会委員
- 財団法人日本学生支援機構「留学交流」編集協力者会議委員、同短期留学実施委員会委員
- 社団法人日本鉄鋼協会関西支部評議員
- 社団法人日本工学会評議員、
- 財団法人軽金属奨学会理事
- 財団法人ナインティナインアジア留学生奨学基金選考委員
- 財団法人吹田市国際交流協会理事
- 公益信託松田與三七記念留学生奨学基金運営委員
- 大阪地域留学生等交流推進協議会専門委員会委員長、同企画委員会委員長、同国際理解教育支援ワーキング座長、

10．講　演　会

- 科学研究費シンポジウム　基盤研究Ａ（一般）「大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究」代表者（平成16／17年度）、2006年１月14日開催

12．そ　の　他

- 国立大学留学生指導研究協議会、2006年１月13日
- 大阪大学地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会、2006年３月１日

三　牧　陽　子

1．専門分野　日本語教育学　社会言語学

2．授業担当

(1) 共通教育

○　春学期

日本語I-2/II-2

○　秋学期

日本語I-5/II-5

(2) 大学院（言語文化研究科）

○　春学期

言語技術特殊研究A

言語コミュニケーション論特別研究A

○　秋学期

言語技術特殊研究B

言語コミュニケーション論特別研究B

(3) 留学生日本語プログラム

○　春学期

専門会話 JC300/JC400-1

専門会話 JC300/JC400-2

○　秋学期

専門会話 JC300/JC400-1

専門会話 JC300/JC400-2

(4) 国際交流科目

○　秋学期

総合日本語JA400-3

3．学生指導

(1) 博士後期課程　4

(2) 博士前期課程　1（留学生）

5．学内運営

・　大学教育実践センター兼任教員（共通教育実践部国際教育部門）
・　大学教育実践センターカリキュラム委員会委員
・　大学教育実践センターカリキュラム企画委員会委員
・　大学教育実践センター既習得科目認定審査委員会委員
・　大学教育実践センター連絡会議委員

6．外部資金

・　科学研究費補助金基盤研究(C)　課題番号14580329　「大学コミュニティにおける留学生のコミュニケーションに関する研究」研究代表者

7．研究業績

(1) 論文

・　「理工系研究室文化」における規範意識と情報伝達、三牧陽子・内藤（都築）裕美・林　洋子・服部圭子・福良直子・藤澤好恵、応募、『社会言語科学会第16回大会発表論文集』、232-235、2005年10月

・　理工系研究室における日本人の意識―留学生への評価を中心に、服部圭子・三牧陽子、応募、『社会言語科学会第16回大会発表論文集』、106-109、2005年10月

・　「理工系研究室コミュニティにおける留学生のコミュニケーションに関する研究」、三牧陽子『科学研究費補助金基盤研究(C) 研究報告書 大学コミュニティにおける留学生のコミュニケーションに関する研究』3-17、2006年３月

・　「理工系研究室におけるコミュニケーションの様相とその背景―「日本語中心型」と「日本語・英語混在型」―」、三牧陽子『科学研究費補助金基盤研究(C) 研究成果報告書 大学コミュニティにおける留学生のコミュニケーションに関する研究』18-47、2006年３月

(2) 著書

・　『科学研究費補助金基盤研究(C)　研究成果報告書　大学コミュニティにおける留学生のコミュニケーションに関する研究』、研究代表者三牧陽子、専門著書、共著、2006年３月、全150ページ

(3) 口頭発表

・　「理工系研究室文化」における規範意識と情報伝達、三牧陽子・内藤（都築）裕美・林洋子・服部圭子・福良直子・藤澤好恵、応募、社会言語科学会第16回大会、2005年10月

・　理工系研究室における日本人の意識―留学生への評価を中心に、服部圭子・三牧陽子、応募、社会言語科学会 、第16回大会、2005年10月

8．学外運営

・　学会、日本語教育学会評議員、（社）日本語教育学会、2002年～

・　協議会、国立大学日本語教育研究協議会理事、2001年～

10．講　演　会

・　110周年記念茨木高校卒業生講座、日本語教育を通して多文化に接する、大阪府立茨木高等学校、2005年７月

村　岡　貴　子

1．専 門 分 野　日本語教育学、日本語文体論、専門日本語教育研究

2．授 業 担 当

(2) 大学院

○　春学期

言語技術特殊研究A

言語コミュニケーション論A

○　秋学期

言語技術特殊研究B

言語コミュニケーション論B

(3) 留学生日本語プログラム

○　春学期

日本語研修コースBクラスJI200

専門日本語文法・読解JG300

専門日本語作文JW300-1

専門日本語作文JW300-2

○　秋学期

日本語研修コースBクラスJI200

日本語研修コースCクラスJI300/400

専門日本語作文JW300-1

専門日本語作文JW300-2

3．学 生 指 導

(1) 博士後期課程　3

(2) 博士前期課程　4（うち留学生は2）

(3) 日本語研修生　18

(5) 日韓共同理工系学部留学生（予備教育生）　5

5．学 内 運 営

・　教育課程委員会

・　日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討WG（日本語科目アドバイザー）

6．外 部 資 金

・　科学研究費補助金基盤研究(C)　課題番号：14580330　平成14年度～平成17年度「種々の理系専門分野における日本語論文作成方法の指導に関する基礎的研究」、研究代表者

・　科学研究費補助金基盤研究(C)　課題番号：14580183　平成14年度～平成17年度「自然言語処理技術を用いた理工系日本語作文支援に関する基礎的研究」（研究代表者：仁科喜久子）、研究分担者

7．研 究 業 績

(1) 論文

・　「農学系・工学系日本語論文の「緒言」の論理展開分析-形式段落と構成要素の観点から-」、村岡貴子・米田由喜代・因京子・仁科喜久子・深尾百合子・大谷晋也、応募、『専門日本教育研究』第7号、専門日本語教育学会、2005年12月、学術論文、有

(3) 口頭発表

・ 「理系日本語論文結論部の構成と表現－日本語教育での論文作成支援を考える新たな視点から－」、村岡貴子・米田由喜代・因京子・仁科喜久子・深尾百合子・大谷晋也、応募、日本語教育学会秋季大会、2005年10月、有

・「日本語論文作成支援リソース再考－理系専門日本語教育の観点から－」、因京子・大谷晋也・仁科喜久子・深尾百合子・米田由喜代・村岡貴子、応募、第８回専門日本語教育学会研究討論会、2006年３月、有

8．学外運営

・ 学会、日本語教育学会、学会誌委員会委員、（社）日本語教育学会、2005年７月

・ 学会、専門日本語教育学会、庶務幹事、1999年３月、会計幹事兼任、2004年３月

12. そ の 他

・ 科学研究費補助金研究成果報告書：基盤研究(C) 課題番号：14580330 平成14年度～平成17年度「種々の理系専門分野における日本語論文作成方法の指導に関する基礎的研究」2006年３月

・ 日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目コーディネーションおよびホームルーム担当

吉　村　裕　美（八亀　裕美）

1．専門分野　言語学、日本語学

2．授業担当

(1) 共通教育

○　春学期

日本語485a

○　秋学期

日本語485b

日本語585b（吹田）

(3) 留学生日本語プログラム

○　春学期

JG500

JW500

JG400/500

JP502（485aと合同）

○　秋学期

JG400/500

JR402/502（595bと合同）

JP503　（485bと合同）

(4) 国際交流科目

○　春学期

JA500-2（JW500と合同）

JA500-3（JG500と合同）

○　秋学期

JA400-1

JA400-2

6．外部資金

・　科学研究費補助金基盤研究 (B)(1)「方言における述語構造の類型論的研究」、研究代表者工藤真由美（大阪大学大学院文学研究科）、研究分担者

・　仏教大学総合研究所　嘱託研究員　「京都における日本近代文学の生成と展開」班（共同研究として３年間で500万円の資金を得ている）

7．研究業績

(1) 論文

・　「江戸小咄本におけるアスペクト・テンス表現」、八亀裕美、応募、『解釈』602/603号、51-57p、解釈学会、2005年５・６月（合併号）、学術論文、有

・　「標準語の文法と方言の文法」、八亀裕美、招待、『日本語学』vol.24-14、6-12p、明治書院、2005年12月、学術論文、無

・　「日本語形容詞の記述的研究－類型論的視点から－」、吉村裕美（八亀裕美）、大阪大学大学院文学研究科論文博士学位申請論文、2005年12月学位授与（未公刊）、学術論文

・　「「AにしてはB」をめぐって」、八亀裕美、招待、『ことばの科学11』(奥田靖雄追悼論文集)、むぎ書房、(印刷中2006年3月刊行予定)、学術論文、有

(3) 口頭発表

・　「形容詞における＜評価＞について」、八亀裕美、招待、広州日本語国際シンポジウム、2005年12月、無

(4) その他

・　「方言における述語構造の類型論的研究　報告書Ⅱ」、吉村（八亀）裕美、科研報告書、共著、(分担：調査票作成者)、2006年３月

資料１　留学生日本語プログラム2005年度時間割

春学期　吹田キャンパス

□：一般日本語　■：専門日本語

		月			火			水			木			金		
	room	授業		担当	授業		担当	授業		担当	授業		担当	授業		担当
I	1	JI100	Aｸﾗｽ	埋橋	JI100	Aｸﾗｽ	埋橋	JI100	Aｸﾗｽ	東保	JI100	Aｸﾗｽ	ソーヤー	JI100	Aｸﾗｽ	大谷
	2	JI200	Bｸﾗｽ	福良	JI200	Bｸﾗｽ	山崎	JI200	Bｸﾗｽ	福良	JI200	Bｸﾗｽ	福良	JI200	Bｸﾗｽ	村岡
8:50	3	JI300	Cｸﾗｽ	東保	JI300	Cｸﾗｽ	西村	JI300	Cｸﾗｽ	藤澤				JP303 / JP403-1	専門日本語 ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ(文系)	西村
～10:20	4	JA400-1	総合日本語	難波										JA400-3	総合日本語	西口
	5	JA200-1	総合日本語	スミス										JA200-3	総合日本語	スミス
	6	JA300-1	総合日本語	岡崎							JC300 /JC400-1	専門会話	三牧	JP304 / JP404-1	専門日本語 ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ(理系)	米田
II	1	JI100	Aｸﾗｽ	埋橋	JI100	Aｸﾗｽ	埋橋	JI100	Aｸﾗｽ	東保	JI100	Aｸﾗｽ	ソーヤー	JI100	Aｸﾗｽ	都築
	2	JI200	Bｸﾗｽ	福良	JI200	Bｸﾗｽ	山崎	JI200	Bｸﾗｽ	福良	JI200	Bｸﾗｽ	福良	JI200	Bｸﾗｽ	山崎
10:30	3	JI300	Cｸﾗｽ	東保	JG300	専門日本語 文法・読解	村岡	JI300	Cｸﾗｽ	藤澤				JP303 / JP403-2	専門日本語 ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ(文系)	西村
～12:00	6				JG400/ JG500	専門日本語 文法・読解	吉村				JC300 /JC400-2	専門会話	三牧	JP304 / JP404-2	専門日本語 ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ(理系)	米田
III	1	JI100	Aｸﾗｽ	大谷	JI100	Aｸﾗｽ	林				JI100	Aｸﾗｽ	ソーヤー	JI100	Aｸﾗｽ	都築
13:00	2	JP200-1	専門日本語 ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ基礎	スミス	JR201-1	専門読解基礎 (非漢字系)	山崎							JR201-2	専門読解基礎 (非漢字系)	スミス
～14:30	3	JW300-1	専門日本語 作文	村岡	JR251-1	専門読解基礎 (非漢字系)	岡崎	JB100-2	総合日本語	藤澤				JR251-2	専門読解基礎 (非漢字系)	山崎
	4	JB200-1	総合日本語	東保	JB100-1	総合日本語	埋橋									
	5				JR255	専門読解 ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ(文系)	西口	JB200-2	総合日本語	東保						
	6	JW400 /JW500-1	専門作文 (論文を書く)	米田										JR256	専門読解ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ (理系)	米田
IV	1	JK101-1	漢字と語彙 (非漢字系)	大谷	JK101-2	漢字と語彙 (非漢字系)	中谷				JK101-3	漢字と語彙 (非漢字系)	齊藤	JK101-4	漢字と語彙 (非漢字系)	齊藤
14:40	2	JP200-2	専門日本語 ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ基礎	安田	JK201-1	漢字と語彙 (非漢字系)	岡崎							JK201-2	漢字と語彙 (非漢字系)	新庄
～16:10	3	JW300-2	専門日本語 作文	村岡	JK251-1	漢字と語彙 (非漢字系)	林							JK251-2	漢字と語彙 (非漢字系)	中谷
	5				JK252-1	漢字と語彙 (漢字系)	西口									
	6	JW400 /JW500-2	専門作文 (論文を書く)	米田				英語補講		嶋津				JK252-2	漢字と語彙 (漢字系)	布尾
V 16:20 ～17:50	5													JT504 /日本語I-3, II-3	専門日本語総合 (理系)	北浜

春学期　豊中キャンパス

□：一般日本語　■：専門日本語

	月				火				水				木				金			
	授業		担当	教室	授業		担当	教室	授業		担当	教室	授業		担当	教室	授業		担当	教室
I 8:50 ～10:20					JA200-2	総合日本語	岡崎	共A203	JB200-1	総合日本語	岡崎	イ-47	JA300-3	総合日本語	岡崎	共A311				
					JA300-2	総合日本語	ソーヤー	共A311					JG500	専門日本語 文法・読解	吉村	イ-47				
					JA400-2	総合日本語	西口	共B206												
					JC500	専門会話	難波	イ-47												
II 10:30 ～12:00	英語補講		池田	サイバーメディアセンター マルチメディアセミナー室	JP310 JP410	専門日本語 プレゼンテーション	ソーヤー	サイバーメディアセンターCALL第２教室	JC310 JC410	専門会話	山崎	イ-47	JG300 JG400	専門日本語 文法・読解	埋橋	イ-47	JB100-2	総合日本語	ソーヤー	イ-47
													JP503 日本語 485A（文系）	専門日本語 プレゼンテーション （文系）	吉村	共A203				
III 13:00 ～14:30					日本語 595A（文系）		難波	共A101									JB200-2	総合日本語	岡崎	イ-47
IV 14:40 ～16:10									JB100-1	総合日本語	ソーヤー	イ-47								
									JR401 JR501	専門読解 ワークショップ （非漢字系）	難波	共B306								
									日本語 I-7, II-7											
									日本語 I-2, II-2		三牧	共B316								
V 16:20 ～17:50	多文化コミュニケーション I-1, II-1		北浜	共B306	日本語 I-1, II-1		大谷	共B316	多文化コミュニケーション I-2, II-2		西村	共 B306	多文化コミュニケーション I-3, II-3		有川	共B316				
					JW500	専門作文	吉村	イ-47												

秋学期　吹田キャンパス

□：一般日本語　■：専門日本語

		月			火			水			木			金		
	room	授業		担当	授業		担当	授業		担当	授業		担当	授業		担当
I	1	JI100	Aクラス	埋橋	JI100	Aクラス	埋橋	JI100	Aクラス	東保	JI100	Aクラス	ソーヤー	JI100	Aクラス	大谷
8:50	2	JI200	Bクラス	福良	JI200	Bクラス	山崎	JI200	Bクラス	福良	JI200	Bクラス	福良	JP304 / JP404-1	専門日本語 プレゼンテーション(理系)	米田
～10:20	3	JI300	Cクラス	東保	JI300	Cクラス	スミス	JI300	Cクラス	西村				JP303 / JP403-2	専門日本語 プレゼンテーション(文系)	西村
	4	JA300-1	総合日本語	難波										JA300-3	総合日本語	西口
	5	JA100-1	総合日本語	スミス										JA100-3	総合日本語	スミス
	6	JA200-1	総合日本語	岡崎							JC300 /JC400-1	専門会話	三牧	JA400-3	総合日本語	三牧
II	1	JI100	Aクラス	埋橋	JI100	Aクラス	埋橋	JI100	Aクラス	東保	JI100	Aクラス	ソーヤー	JI100	Aクラス	都築
10:30	2	JI200	Bクラス	福良	JI200	Bクラス	山崎	JI200	Bクラス	福良	JI200	Bクラス	福良	JP304 / JP404-1	専門日本語 プレゼンテーション(理系)	米田
～12:00	3	JI300	Cクラス	東保	JG300	専門日本語 文法・読解	スミス	JI300	Cクラス	村岡				JP303 / JP403-2	専門日本語 プレゼンテーション(文系)	西村
	6				JG400/ JG500	専門日本語 文法・読解	吉村				JC300 /JC400-2	専門会話	三牧	JI200	Bクラス	山崎
III	1	JI100	Aクラス	大谷	JI100	Aクラス	林				JI100	Aクラス	ソーヤー	JI100	Aクラス	都築
13:00	2	JP200-1	専門日本語 プレゼンテーション基礎	スミス	JR201-1	専門読解基礎 (非漢字系)	山崎				JI200	Bクラス	村岡	JR201-2	専門読解基礎 (非漢字系)	スミス
～14:30	3	JW300-1	専門日本語 作文	村岡	JR251-1	専門読解基礎 (非漢字系)	岡崎	JB100-2	総合日本語	渡部				JR251-2	専門読解基礎 (非漢字系)	山崎
	4				JB100-1	総合日本語	埋橋									
	5	JB200-1	総合日本語	東保	JR255	専門読解 ワークショップ(文系)	西口	JB200-2	総合日本語	東保						
	6	JW400 /JW500-1	専門作文 (論文を書く)	米田	JR402 /JR502 /(共)	専門読解ワークショップ (漢字系) /日本語595B	吉村							JR256	専門読解ワークショップ (理系)	米田
IV	1	JK101-1	漢字と語彙 (非漢字系)	大谷	JK101-2	漢字と語彙 (非漢字系)	中谷				JK101-3	漢字と語彙 (非漢字系)	齊藤	JK101-4	漢字と語彙 (非漢字系)	齊藤
14:40	2	JP200-2	専門日本語 プレゼンテーション基礎	安田	JK201-1	漢字と語彙 (非漢字系)	岡崎							JK201-2	漢字と語彙 (非漢字系)	新庄
～16:10	3	JW300-2	専門日本語 作文	村岡	JK251-1	漢字と語彙 (非漢字系)	西口							JK251-2	漢字と語彙 (非漢字系)	中谷
	5				JK252-1	漢字と語彙 (漢字系)	須田							JK252-2	漢字と語彙 (漢字系)	布尾
	6	JW400 /JW500-2	専門作文 (論文を書く)	米田				英語補講		嶋津						
V	3	JA400-1	総合日本語	吉村												
16:20～17:50	5													JT504 /日本語I-6, II-6	専門日本語総合 (理系)	北浜

秋学期　豊中キャンパス

□：一般日本語　■：専門日本語

	月				火				水				木				金			
	授業		担当	教室	授業		担当	教室	授業		担当	教室	授業		担当	教室	授業		担当	教室
I 8:50 〜10:20					JA100-2	総合日本語	岡崎	共A203	JB200-1	総合日本語	岡崎	イ-47	JA200-3	総合日本語	岡崎	イ-47				
					JA200-2	総合日本語	ソーヤー	イ-47					JA400-2	総合日本語	吉村	共A311				
					JA300-2	総合日本語	西口	共A311												
II 10:30 〜12:00	英語補講		池田	サイバーメディアセンター マルチメディアセミナー室	JW310 JW410	専門作文	ソーヤー	イ-47					JG300 JG400	専門日本語 文法・読解	埋橋	イ-47	JB100-2	総合日本語	ソーヤー	イ-47
													JP503 日本語 485B（文系）	専門日本語 プレゼンテーション（文系）	吉村	共A203				
III 13：00〜 14：30					日本語 595B（文系）		難波	共A101									JB200-2	総合日本語	岡崎	イ-47
IV 14:40 〜16：10									JB100-1	総合日本語	ソーヤー	イ-47								
									JR401 JR501 日本語 I-8, II-8	専門読解 ワークショップ（非漢字系）	難波	共B306								
									日本語 I-5, II-5		三牧	共B206								
V 16：20 〜17：50	多文化コミュニケーション I-4, II-4		西村	共B306	日本語 I-4, II-4		大谷	共B316	多文化コミュニケーション I-5, II-5		難波	共B206	多文化コミュニケーション I-6, II-6		有川	共B206				

資料２　2005年度　日本語科目・英語補講履修登録者数一覧

2－1　春学期

（１）部局別登録者数

	登録者数		身分別内訳							
			研究生		大学院生		短期留学生		学部生	
	日本語	英語補講	日本語	英語補講	日本語	英語補講	日本語	英語補講	日本語	英語補講
文学部・文学研究科	5	3	5	1	0	2	0	0	0	0
人間科学部・人間科学研究科	7	2	0	1	7	1	0	0	0	0
法学部・法学研究科	2	5	1	0	1	4	0	0	0	1
経済学部・経済学研究科	2	3	0	1	1	1	1	0	0	1
理学部・理学研究科	4	1	0	0	4	1	0	0	0	0
医学部・医学系研究科	12	2	5	1	7	1	0	0	0	0
歯学部・歯学研究科	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0
薬学部・薬学研究科	5	1	1	1	4	0	0	0	0	0
工学部・工学研究科	24	2	5	0	15	1	4	1	0	0
基礎工学部・基礎工学研究科	15	1	4	0	10	1	1	0	0	0
言語文化研究科	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
国際公共政策研究科	4	4	4	3	0	1	0	0	0	0
情報科学研究科	5	2	1	0	4	2	0	0	0	0
生命機能研究科	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
微生物病研究所	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
産業科学研究所	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0
社会経済研究所	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
接合科学研究所	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
ﾚｰｻﾞｰｴﾈﾙｷﾞｰ学研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サイバーメディアセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学生センター（研修コース及びOUSSEP）	62	3	30	3	0	0	32	0	0	0
計	160	29	59	11	61	15	40	1	0	2

（２）レベル別身分内訳

日本語科目 レベル	登録者数	身分別内訳			
		研究生	大学院生	短期留学生	学部生
（未習）100	33	23	9	1	0
200	30	10	10	10	0
300	36	6	14	16	0
400	36	10	17	9	0
500	17	7	7	3	0
（学部学生レベル）550+	8	3	4	1	0
計	160	59	61	40	0

英語補講	登録者数	身分別内訳			
		研究生	大学院生	短期留学生	学部生
計	29	11	15	1	2

●英語補講登録者のうち、15名は日本語科目及び英語補講に登録。

2－2　秋学期

（1）部局別登録者数

	登録者数		身分別内訳							
			研究生		大学院生		短期留学生		学部生	
	日本語	英語補講	日本語	英語補講	日本語	英語補講	日本語	英語補講	日本語	英語補講
文学部・文学研究科	8	4	6	3	0	0	2	1	0	0
人間科学部・人間科学研究科	4	1	2	1	1	0	1	0	0	0
法学部・法学研究科	4	1	3	0	1	1	0	0	0	0
経済学部・経済学研究科	10	2	2	1	1	1	7	0	0	0
理学部・理学研究科	4	2	2	2	2	0	0	0	0	0
医学部・医学系研究科	7	2	6	1	1	1	0	0	0	0
歯学部・歯学研究科	5	0	0	0	5	0	0	0	0	0
薬学部・薬学研究科	6	3	4	2	2	1	0	0	0	0
工学部・工学研究科	39	5	11	5	23	0	5	0	0	0
基礎工学部・基礎工学研究科	14	3	5	0	8	1	1	0	0	2
言語文化研究科	1	4	1	0	0	4	0	0	0	0
国際公共政策研究科	4	3	4	2	0	1	0	0	0	0
情報科学研究科	6	3	3	0	3	3	0	0	0	0
生命機能研究科	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0
微生物病研究所	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
産業科学研究所	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
社会経済研究所	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
接合科学研究所	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
サイバーメディアセンター	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
留学生センター（研修コース及びOUSSEP）	53	0	28	0	0	0	25	0	0	0
計	173	35	83	19	48	13	42	1	0	2

（2）レベル別身分内訳

日本語科目 レベル	登録者数	身分別内訳			
		研究生	大学院生	短期留学生	学部生
（未習）100	42	20	7	15	0
200	39	18	11	10	0
300	31	16	11	4	0
400	31	12	10	9	0
500	14	5	7	2	0
（学部学生レベル）550+	16	8	3	5	0
計	173	79	49	45	0

英語補講	登録者数	身分別内訳			
		研究生	大学院生	短期留学生	学部生
計	35	19	13	1	2

●英語補講登録者のうち、16名は日本語科目及び英語補講に登録。

資料３　国際交流科目授業時間割

平成17年 春学期 国際交流科目

時限	時間	月	火	水	木	金
		吹田キャンパス	豊中キャンパス		豊中キャンパス	吹田キャンパス
Ⅰ	8:50 ｜ 10:20	日本語JA (200, 300, 400) 《留学生センター》	日本語JA (200, 300, 400, 500) 《留学生センター》		日本語JA (300, 500) 《留学生センター》	日本語JA (200, 400) 《留学生センター》
		200:スミス　朋子(非) 300:岡崎　洋三(非) 400:難波　康治　助教授	200:岡崎　洋三(非) 300:ソーヤー理恵子(非) 400:西口　光一　教授 500:難波　康治　助教授		300:岡崎　洋三(非) 500:吉村　裕美　講師	200:スミス　朋子(非) 400:西口　光一　教授
		ICホール2F 留学生センター 200:講義室 5 300:講義室 6 400:講義室 4	200:共通教育A203 300:共通教育A311 400:共通教育B206 500:共通教育イ47		300:共通教育A311 500:共通教育イ47	ICホール2F 留学生センター 200:講義室 5 400:講義室 4
Ⅱ	10:30 ｜ 12:00	我が国の保健医療制度の概要 《医学部》	哲学的思考と日本の伝統 《文学部》		科学技術日本語Ⅱ 社会科学日本語Ⅱ 《留学生センター》	日本の社会とイデオロギー 《留学生センター》
		森本　兼曇　教授	中岡　成文　教授	自主研究	科:北浜　榮子　教授 社:西村　謙一　助教授	近藤　佐知彦　助教授
		ICホール2F 留学生センター 講義室 5	文学部A45	(A・B・C)	科:理学部B201 社:理学部B208	ICホール2F 留学生センター 講義室 5
Ⅲ	13:00 ｜ 14:30	21世紀の電子工学 《工学部》	近代日本政治 《国際公共政策研究科》	実地見学	異文化理解へのアプローチ 《留学生センター》	
		森田　清三　教授	栗栖　薫子　助教授		有川　友子　助教授	
		ICホール2F 留学生センター 講義室 5	国際公共政策研究科棟 演習室B		共通教育A312	
Ⅳ	14:40 ｜ 16:10		物性物理学入門 《基礎工学部》		身のまわりの化学 《理学部》	
			三宅　和正　教授		村田　道雄　教授	
			理学部B208		理学部B212	
Ⅴ	16:20 ｜ 17:50		日本語JA (500) 《留学生センター》			
			500:吉村　裕美　講師			
			共通教育イ47			

平成17年 秋学期 国際交流科目

時限	時間	月	火	水	木	金
		吹田キャンパス	豊中キャンパス		豊中キャンパス	吹田キャンパス
Ⅰ	8:50 | 10:20	日本語JA (100, 200, 300) 《留学生センター》	日本語JA (100, 200, 300) 《留学生センター》		日本語JA (200, 400) 《留学生センター》	日本語JA (100, 300, 400) 《留学生センター》
		100:スミス朋子(非) 200:岡崎 洋三(非) 300:難波 康治 助教授	100:岡崎 洋三(非) 200:ソーヤー理恵子(非) 300:西口 光一 教授		200:岡崎 洋三(非) 400:吉村 裕美 講師	100:スミス朋子(非) 300:西口 光一 教授 400:三牧 陽子 教授
		ICホール2F 留学生センター 100:講義室 5 200:講義室 6 300:講義室 4	100:共通教育A203 200:共通教育イ47 300:共通教育A311		200:共通教育イ47 400:共通教育A311	ICホール2F 留学生センター 100:講義室 5 300:講義室 4 400:講義室 6
Ⅱ	10:30 | 12:00	内と外から見た日本 《人間科学部》	現代物理学の最前線 《理学部》	自主研究	日本における言語と文化の多様性 《文学部》	日本のメディアとコミュニケーション 《留学生センター》
		石川 真由美 講師	細谷 裕 教授		土岐 哲 教授	近藤 佐知彦 助教授
		人間科学部東館106	理学部B212	(A・B・C)	文法経講義棟 文12講義室	ICホール2F 留学生センター 講義室5
Ⅲ	13:00 | 14:30		最近の科学・技術の話題 ー科学技術日本語Ⅰー 最近の社会・文化の話題 ー社会科学日本語Ⅰー 《留学生センター》	実地見学	近代・現代日本文学 《言語文化部》	薬学入門 《薬学部》
			科:北浜 榮子 教授 社:西村 謙一 助教授		村上 スミス・アンドリュー 助教授	谷 佳津治 講師
			科:理学部B208 社:理学部B340		理学部B212	ICホール2F 留学生センター 講義室 5
Ⅳ	14:40 | 16:10	工学の基盤分野における日本の革新技術 《工学部》	機械科学への招待 《基礎工学部》		日本の法・政治システムと法・政治文化 《法学部》	
		掛下 知行 教授	平尾 雅彦 教授		瀬戸山 晃一 講師	
		工学部材料系 R2-323	基礎工学部D122		理学部B212	
Ⅴ	16:20 | 17:50	日本語JA (400) 《留学生センター》				
		400:吉村 裕美 講師				
		ICホール2F 留学生センター 講義室 3				